

館 列 陳 品 商 務 爾 哈  
ト ツ レ フ シ バ

道 鐵 支 東  
情 事 線 沿 部 西

月 十 年 四 和 昭  
號 二 十 二 百 一 第

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5

始



### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします
- 一、本會は左の刊行物を發行します
  - (イ)露亞 時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
  - (ロ)パンフレット—同上記事を三十頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)
  - (ハ)週報—週内哈爾濱地方に起りたる出來事を簡報し讀者の實問に供するのであります(週刊謄寫版)
- 一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります
- 一、會員は一ケ年拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡斜紋街商品陳列館内

### 露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

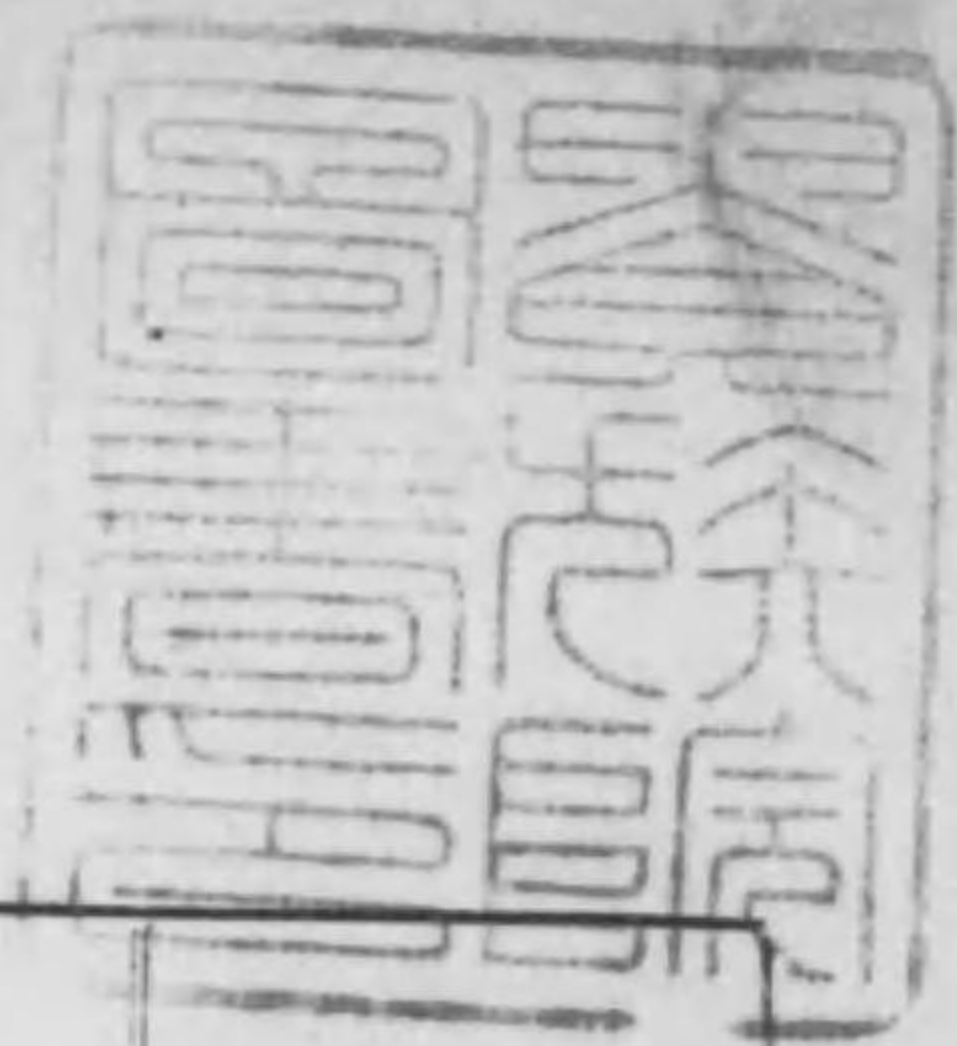
パンフレット第百二十二號

### 東支鐵道西部沿線事情(上)

北滿の大富源に東支鐵道に依つて開發された、而かも其西部線は最も重要視され、是が研究に必要且つ興味深い所である、曾て滿洲里、海拉爾事情「東支鐵道沿線指南」を頒布したが、久し絶版となり居たので、八月南部沿線事情を發行し、九月館員山内忠三を中心として西部線の實況に就いた、恰も露支風雲急を告げて居た際として其經濟上に及ぼせる影響も窺はれる、即ち右報告書を上梓して讀者の參考に供する。

昭和四年十月廿八日

森 御 蔭



### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は露滿、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査し、その目的を達するを旨とする。
- 二、本會は左の刊行物を發行します。
- （イ）露蒙時報（露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があり、毎月一日刊行）
- （ロ）パンフレット（同上の事項を三十頁乃至百頁に一冊の形にしたる發行物であり、毎月二回刊行）
- （ハ）週報（露滿蒙地方の新聞紙の要約を掲載し、週五の新聞に供するものである）
- （ニ）月刊（露滿蒙地方の新聞紙の要約を掲載し、毎月一冊の新聞に供するものである）
- 三、本會は、一、二年に一回の會員大會を開き、その議決事項を執行するものとする。
- 四、本會は、一、二年に一回の會員大會を開き、その議決事項を執行するものとする。

### 露滿蒙通信刊行會

### 哈爾濱商品陳列館

パンフレット第二百二十二號

### 東支鐵道西部沿線事情(上)

北滿の大富強は東支鐵道に依つて開發された、而かも其西部線は最も重要視され、是が研究に必要且つ興味深い所である、曾て「滿洲里、海拉爾事情」「東支鐵道沿線指南」を頒布したが、久しく絶版となつて居たので、八月南部沿線事情を發刊し、九月館員山内忠三部をして西部線の實査に當らしめた、恰も露支風雲急を告げて居た際さて其經濟上に及ぼせる影響も窺はれる、即ち右報告書を上梓して讀者の參考に供する。

昭和四年十月廿八日

森 御 蔭



東支鐵道西部沿線事情 (上)

目次	一
概說	一
一、滿洲里	六
位置	六
沿革	六
氣象及氣溫	八
市街概觀	一〇
戶數人口	一二
市況	一三
タルハカン獵	一五
漁業	一七



密輸貿易	二〇
對露貿易	二二
輸出入統計	二四
物價	三二
金融機關	三五
通貨	三八
工業	三八
礦業	三九
主なる商店	四〇
日本在留民	四四
將來	五〇
二、札賚諾爾	五一

札賚諾爾炭坑	五三
三、海拉爾	五七
位置	五七
沿革	五八
氣候	五九
市街概観	六〇
人口	六二
對蒙輸出品	六六
蒙古より輸入品	六九
對露貿易	七四
物價	七八
主なる商店	八〇

輸送統計	八一
金融及通貨	八四
工業	八五
農業	九〇
日本人の現状	九〇
時局と蒙古青年黨	九二
海拉爾の將來	九四
四、甘珠爾廟歲市	九五
五、哈克(ハケ)	九八



## 東支鐵道西部沿線事情 (上)

### 概説

北滿に旅する人は最近非常に増加しましたが大概哈爾濱まで、哈爾濱から以西では精々齊々哈爾濱に出、洮昂線で洮南に出る位で西部線を滿洲里まで行く人は極く僅少であります。此の西部線は、風物や經濟關係が或は純ロシア式であり、或は蒙古風であり、或は又純支那式であつたり其行く先々に依つて異色あり、興味深い所は珍らしいと思ひます。

抑々東支鐵道西部線は哈爾濱から以西滿洲里迄の九三五キロの間で、全線黑龍江省を横斷し約一晝夜の旅程であります。

此の地方は始め全部を擧げて滿洲旗人の所有に屬して居たので、東支鐵道敷設以前は其の開發は遅々たるもので、主として遊放の民が水草を迫ふて悠々の日を送り、比較的人口の稠密となつたのは單に齊々哈爾濱と其の附近の部落に過ぎなかつたのであります。それが光緒二十四年(西曆一八九八年我明治三十一年)に東支鐵道が建設されて以來、今日の如く著しい發展を遂げたもの

であります。

東支鐵道西部線及其の接壤地域の面積人口等は大約次の通りであります。

地方名	面積(平方キロメートル)	人口	一平方キロメートル人口密度
呼倫貝爾	一五五、六	七五、〇〇〇人	〇。五
齊々哈爾	一九七、〇	五五〇、〇〇〇	二、八
安達	七三、五	一、九〇〇、〇〇〇	二五、九
計	四二六、一	二、五二五、〇〇〇	五、八

齊々哈爾地方は嫩江流域で龍江、景星、訥河、嫩江及布西の諸縣、安達地方は林甸、安達、克山、青崗、拜泉、肇東、海倫、望奎、通北、蘭西、及龍門等の諸縣を指し、平々坦々一望十里何等妨げるもの無き沃野で、北滿の穀倉とも云はる、農業地域、即ち北滿今日の隆盛を齎らした源泉であります。是等の地方から出廻る大豆や小麦、高粱、粟、燕麥、等が對青山、滿溝、安達、小窩子、昂々溪等の各驛から積出され、戰禍に追はれた山東移民の激増と共に耕作地面積の増加と農産額の激増に伴ひ是等の各驛は年々急速的發展を遂げて居ります。

此の農業地域の向ふが大興安嶺となり丁度西部線と十字形を成して蟠踞して居ます。碾子山から牙克石までが森林地帯となり此の大興安嶺から伐り出される落葉松は主として枕木や坑木に使はれます。博克圖、伊列克都、免渡河等が主な木材出廻り驛であり、林區としては札免公司及ウラロンツラフの両者が有名であります。

此の興安嶺には狩獵を生業とし射撃が巧みで百發百中と云はれるオロチオン族、や狩獵と牧畜に生きるソロン族等も住んで居ります。

興安嶺を越えるとゴビの沙漠の末端、呼倫貝爾となり蒙古族が住み、白い砂丘や一面の草原には牛や馬や羊が放牧されて居ます。即ち牙克石から滿洲里までを牧畜地域とせられます。人皆が尖つた神經にイラ／＼し乍ら生活に喘いで居る今日、是は又時代の斷け放れた昔ながらの遊牧の民を此處に見る事が出来ようとは實に面白いではありませんか。

蒙古貿易の中心地である海拉爾や滿洲里では、駱駝がノソリ／＼町中を歩んで居る等も、都人士の思ひも及ばぬ愉快な點景であります。

滿洲里は歐洲との連絡國境驛であり、又ロシアに對する密輸の根據地であります。今は露支

紛争のため連絡も、密輸も杜絶のまゝ、淋しく鐵道のみロシアに續いて居ります。

此の外齊々哈爾は黑龍江督軍の所在地として純支那式であり、西部線第一の殷盛を誇つて居ります。

札蘭屯と富拉爾基は夏季避暑地として有名で、殊に札蘭屯は滿洲には珍らしい清い流の雅魯河に沿ふ鬱蒼たる樹木に覆はれた如何にもスガ／＼しい町で、夏なら旅塵を此地に洗ふも一興でありませう。

此の清い雅魯河は東に向つて鐵道と併行して流れ齊々哈爾の下流で小興安嶺から南行する嫩江に、嫩江は更に伯都訥で松花江に合流します。一方興安嶺を西に流れる海拉爾河、伊敏河、ウルシユン等はアルグニ河に合一黑龍江となります。西伯線地方では此の嫩江が齊々哈爾までと黑龍江の上流アルグニ河が吉拉林まで航行の便があるのみで、而かも何れも餘程の好條件の時のみ限られて居ります。アルグニ河の上流ウルシユン河と呼倫池(タライノール)とは漁業が隆盛であり、海拉爾の横をよぎる伊敏河は羊毛洗滌に利用せられて居ります。

工業としては各地に製粉、油房、皮革、バタ、アコール醸造等があり、特に海拉爾の洗毛工場

や滿洲里の風車製粉所は地方色の豊かなものであります。

鑛産物は北滿洲ではまた餘り問題にされて居りませんが、それでも札來諾爾及滿洲里の石炭坑と吉拉林の砂金鑛を擧げる事が出来ます。

大興安嶺等には幾多の鑛物を埋藏されて居るものと思はれますが、まだ殆んど手が附けられて居りません、最近砂金鑛が発見されたと新聞紙に發表されて居りますが、鑛産に就てはまだ／＼將來あるものと思はれます。

是れを要するに東支鐵道西部線は北滿洲に於ける最も重要な地點を貫通するもので經濟上最も有意義な鐵路であります。

然るに七月初旬以來此の東支鐵道を支那側が回收しようとしたのに端を發し、遂に今日の露支紛争を惹起するに至りましたが、それが爲め歐洲への連絡は杜絶へ、滿洲里は時々爆弾や砲火に脅やかされ、沿線各地には支那兵が駐屯して物々しい警戒振りで、經濟上何れも非常な打撃を受けて居ります。一体何日になつたら無事に解決するものやら一向に見富も附きませんので、其の影響は益々深酷となつて行く様に思はれ、戦禍の恐ろしさをまぎ／＼と見せ附けられます。年々



歳々農産物收穫の頃になれば何彼と事件が生まれ、戦争シーズンとも稱すべく、其の絶間もありませんが是亦北滿の一情景とも申しませうか。

## 一、滿洲里

### 位置

滿洲里は哈爾濱から西に九三五キロ、北緯四九、三五度、東經一一七、二六度、殆んど四周を山でめぐらして、僅かに南に少しばかり蒙古へ通じる平野の出口を開いて居る位の盆地の中に在る國境町であります。東支鐵道の起點で、平時ならば歐亞連絡の旅客は此の地で乗り換へて露領シベリヤの後貝加爾州へ往來するのであります。

### 沿革

滿洲里は元黑龍江省副都統管地の一であつた呼倫貝爾(別名巴爾虎)の茫漠たる荒原に過ぎなかつたのであります。光緒二十四年(西曆一八九八年)東支鐵道の建設と共に後貝加爾鐵道南部線の終點東支鐵道の起點驛とし新に市街が創建され國境地點たる地理的關係上漸次發達したのであります。

哈爾濱と同じ様に日露戦争の際露國軍隊や多勢商人の來住する者があり急激に人口も増加し、戦後日支滿洲協約に依つて海拉爾と共に商埠地として開放せられ外國人の居住及貿易の自由を認められるに至りました。露國人は市公共團體を組織し、革命騒擾に關聯して解散せられましたが一九〇九年(明治四十二年)には町自治制を施行し、一九二三年(大正十二年)市に昇格、後一九二六年(民國十五年)四月自治會は遂に支那側に回收せられ市制に大變更を加へて純然たる支那管下の市自治會となりました。

滿洲里は別名贖濱とも稱しますが、是は光緒三十五年(明治四十二年)露支間の交渉事務を司り且つ地方の開闢並に邊防に當らしむる爲め贖濱府を設けた爲めであります。然るに民國元年(明治四十五年)に至り總管車和札を統領とする蒙古軍が露國援助の下に來襲、支那官憲を追放し、車自ら此地の統領となり、蒙古の獨立を宣し、海拉爾蒙古政廳の管下に歸するに至りました。其

後大正九年二月支那政府は黨國の内亂に乗じて、呼倫貝爾の自治を取消し呼倫貝爾特別區域を設定し、海拉爾に善後事宜督辦を置き、其の管下として此の地に縣知事を置き、地方行政に任ずる事となり大正十四年（一九二五年）三月には前記特別區を廢し呼倫道と改め呼倫道尹の管下に屬せしめましたが、本年一月國民政府成立と共に呼倫道を廢して黑龍江省政府に直轄せしむる事となつたのであります。

氣象及氣溫

氣候は所謂大陸的で、寒暑の差激しく、四季を通じて西北の烈風吹き荒び、冬季及春季に於て特に甚しいのですけれども、早春及初秋の候は非常によ、天氣もあるものであります。

四月頃復活祭が訪づれる頃はトルストイの『復活』に見る様に氷も解けてそろ／＼春らしい氣持となり、六月までは野にたんぽぽやすみれや草花が咲き出ます。六月まには急に暑熱を増し七月には列氏の四十五度にヒリ、毎日の様に夕立が降るので、漸やく暑さを凌ぎ得る程であります。九月は小春日和の中に樹々は早くも黄葉して、十月既に寒氣を感じ、ペーチカを焚いて七個月

の間を冬籠りします。

雪は却て稀で、嚴冬の日に若し西北の風でも吹かうものなら、列氏零下四十五度位に下り、寒氣は三尺餘の石壁を透して室内に感ぜられるようであります。

昨年度の測候所の統計を掲げますと次の通りであります。

	平均温度	最高温度	最低温度	合計降水量	最高降水量	十五年平均温度
一月	(一)二六、一	(一)一四、六	(一)三九、一	六、九ミリ	二、〇	(一)二六、二
二月	(一)二三、一	(一)八、八	(一)三五、三	三、〇	一、八	(一)二三、二
三月	(一)一五、三	(一)〇、六	(一)三一、八	一一、六	四、一	(一)一四、二
四月	一、四	一七、一	(一)二二、二	一一、一	八、九	〇、五
五月	八、九	二六、六	(一)五、五	〇、三	〇、二	一〇、三
六月	一七、九	二九、三	一、四	六三、三	四七、八	一七、四
七月	二〇、六	三一、四	六、四	二八、七	一三、二	二〇、八
八月	一八、七	三〇、四	五、二	九九、〇	二三、五	一七、八

九月	八、九	二一、八	(一) 五、九	七三、一	二四、三	八、八
十月	一、一	一七、六	(一)二一、六	〇、〇	〇、〇	(一) 〇、二
十一月	(一)二四、六	五、三	(一)三二、四	四、二	三、一	(一)二四、二
十二月	(一)二四、一	(一)一〇、一	(一)三九、〇	四、三	一、二	(一)二三、八
合計又は平均	(一)二一、一	三一、四	(一)三九、一	三〇五、五	四七、八	

然し本年は七月下旬より九月上旬まで約五十日といふもの雨の降らぬ日とは無く、夏は殊の外涼しく、八月末には早や雪でも降りはないかと思はれる程の寒さに、皆々ふるひ上りました。時局の爲め薪炭の入手も困難ですし、空家や空家同然の家が多い事とて此の冬は殊更寒からうと心配されて居ります。

**市街概観**

市の東端にある名物風車の丘に立つと、赤い煉瓦の色で彩られた市街は一望の内に眺められます。家屋は石造が最も多数で、煉瓦及木造之に次ぎ、多くは平屋で二階建は稀でロシア人の建設

した市街でありますから總じてロシア式であります。

驛の附屬地として東支鐵道の租借した地積は千七百十四万六千八百五十五坪(約四千町歩)で其内市街地として三十四万五千五百六十九坪を二百五十六區に分ち鐵道線路の北側四十地區をザバイカル鐵道用地とし、線路の南側を普通支那側と稱し、東支鐵道舎宅町で水道等も完成し、広い屋敷を占め樹木も多くよく茂つて居ります。商業地區たる市街は線路の北側にあります。

街路は鐵道線路に直角に南北に通するもの八條、之を東西に横斷するもの六條、幅は比較的廣く十二三サーゼンで、概ね砂地である爲め雨水等もよく吸込まれますが、板で歩道の敷設された所や道路樹の植付けられた所もあります。

二道街と大街が先づ目貫の場所です。北西端に市場があります。又市街を西に出ると廣い野原に出ますが、今は汽車のはぬ國際連絡鐵路が廻々と横はる彼方遙かに露軍の前哨兵營等も見え、マツエフスカヤの邊りも指示する事が出来ます。

繪に描かまほしいコバルト色の玉葱型の塔のあるロシア寺院も二つあります。時局の爲め浴付かぬ市民に福音を傳へる鐘が鳴り渡ります。又小さな公園が一つありますが遊んで居る人は一人

もありません東支鐵道クラブは本春既に閉鎖され、唯一の娯樂場たる活動寫眞館モデルンも休業し、たゞ小さな玉突屋から球を撞く音が洩れて居ましたが、物淋しい殺風景の中に僅かに和やかな氣持をたゞよはして居る様に思はれました。

尙最近は戒嚴令を敷き町の四つ角には歩哨が立ち、夜は十一時以後絶対に通行を禁じて居ります。そして軍隊に對する給料も滞りなく支給され又處置良しきを得て、兵士の暴れる様な事もなく市中の治安は充分に保持されて居ます。

戸數人口

昭和三年末支那特別區警察署の調査に依りますと次の通りであります。  
但し日本人は四年六月日本領事館の調査に依ります。

國籍	戸數	男	女	計
白系露人	一、五六四	四、二八八	四、八八四	九、一七二

赤系露人	三五二	八一二	七九七	一、六〇九
歸化露人	二	二	八	九
支那 人	八三四	四、一八七	九八五	五、一七二
日本内地人	四九	六四	一〇一	一六五
朝鮮 人	四	三一	二五	五六
其他外人	二七	四四	三六	八〇
計	二、八三二	九、四二八	六、八三五	一六、二六三

然るに本年七月時局勃發以來難を避けてハルビン其他の方面へ逃げ出した者が多く、特に支那商の多くは、墾濠工事等の雜役夫として徴發されたので、何れも之を恐れて殆んどハルビン方面に避難し、又赤系露人は殆んど全部強制的に追放又は逮捕され、白系露人でも金の有る者はハルビン方面へ避難しましたので、残る所のは僅かに露人二千支人一千と日本人位に過ぎない様であります。

市況

元來滿洲里の商店は歐洲大戰直前からモスコウ等へ貨物を仲繼轉送する爲めに開設され、原來莫大の利益を收め、一方其の取引勢力は呼倫貝爾西方各旗、克魯倫流域地方一帶、哈拉哈、及内蒙に迄及び、外蒙とは庫倫に通ずる道路を以て連絡し、又南方多倫諾爾、張家口とも馬車道の相通するものがありました。

然し露西亞帝國の崩壊後は市況頓に衰頽し、殊に一九二五年外蒙の國境封鎖以後は唯一の根據地であつた車臣汗の柔貝子市場との取引も杜絶して呼倫貝爾内に局限されるに至りました。

此の不振の状態を續ける内に、それでもロシヤ及外蒙への密輸貿易者を相手に弗々取引を繼續して來ましたが國境の監視も益々嚴重となり、加之昨夏蒙族動亂の爲め尠なからぬ創痍を受け、且つ昨冬の漁業が豫想外不成績であつた爲め破産閉店十數戸を出した程であります。

其の矢先き、今回の露支紛争事件が勃發して、日々ロシヤの飛行機が飛んで來て示威運動を爲し、遂に九月九日以來度々爆弾や砲火の御見舞を受くるに至りました。

是より先在留露支人は其身の危険を恐れ何れもハルビン方面に避難し、商品も殆んどチチハルやハルビンに發送して仕舞ひ、目貫のブーシキンの大通りでも店は大抵戸も窓も堅く閉され、留

守番も居らぬ位、營業して居る店は數へる程よりなく假令店を開けて居るものも店には何にも無くガラソ堂や杏下一つ買ふにも五六軒搜さねばならぬ程であります、淋しい市街が死の町の様に靜かです、何といふさびれ方です。たゞタルバカン獵期の爲めゴム底足袋が弗々賣れるのと、冬漁の準備の爲め漁網が少々契約される位で、お客様が無いのですから他に商賣らしい商賣も無い、何れも徒食して居る様な慘めな状態であります。

本年は滿洲里の生命とするタルバカン獵も漁業も思はしくなく、露支兵がお互に國境を監視して居るのでロシヤへの密輸出も思ひも及ばぬ事となり蒙古貿易も貨物市外搬出制限の爲め殆んど杜絶して仕舞ひました。

今回の事件で滿洲里全体の蒙つた直接間接の影響は實に大きいもので損失總計二百萬元に上らうかと云はれて居りますが、是れが回復までには相當の年月を要する事でありませう。

#### タルバカン獵

タルバカンはベストを媒介するといふので有名であります、大興安嶺西北オノン河溪に至る

間の呼倫貝爾、アルグニ及後貝加爾南部一帶の曠原の土中に棲息する、兔に似た哺乳動物で、巾約一尺、長さ一尺五寸乃至二尺、毛皮は褐色で、鼠の如き鋭利な歯を有し、四脚は猿の手の如く自由で、土塊石等を思ふがまくに持ち運び、殊に穴を堀ることに妙を得て居ります、結氷期間は穴居し、解氷後四月頃から附近に出て菓木を常食として駆け廻ります。寢室と便所とを別々にし其他生活の状態が人間に似て居りますので、タルバカンに従前人間であつたのが人非人の悪事をした結果神罰に依て獣となつたものと信じられて居ります。

捕獲期は四月下旬から五月末までを第一期とし、七月中旬から九月末までを第二期とします。六月初旬から七月上旬までは、毛の抜け變る時でありますから一般に捕獲を中止します。第一期中には脱毛中のもの等があり品質は一定しません、第二期に至りましては品質一定し、値段も前者に比して割高であります。其の捕獲方法は二つあります蒙古人は巧に誘き出して撲殺しますが、露支人は棲息する穴口に民を懸けて捕獲します。

呼倫貝爾地方で捕獲されてもの一ヶ年約百方枚で、内半数が滿洲里、海拉爾方面へ出廻るので滿洲里の最も大なる財源であります。

本年は春獵は相富の成績であつたと云ふ事ですが、秋獵は食料携帯を制限され往復十日以上は許されませんから遠方まで行く事が出来ず、従て捕獲数も非常に少い模様ですが、値段は買手が少いので反對に安く、昨年四元位であつたのが一枚大洋二元五角（金一圓五〇錢）見當であります。

總てアメリカに輸出され染色が容易な爲め各種貴重毛皮の模造に供せられます。

### 漁業

呼倫貝爾の湖沼河川には漁業が盛んに行はれて居る今日でも魚類の棲息が割合豊富であります。

同地方は今尙人煙稀薄であります、往古此處に住んで居たものは遊牧を事とする僅少の蒙古人のみに限られ、彼等は宗教上の信仰から魚類を捕へて食ふ事を嫌禁して居りましたので、是等の湖沼河川には魚類が自由に増殖し、貝爾湖の如き今日でさへも漁場の開設を見ない處女湖で自然の養魚湖となつて居ります。

乾草を得んが爲めに後貝加爾から侵入した露人が此の豊富なる魚族を發見して盛んに之を捕へ様としましたが、信仰上より殺生を忌む蒙古人と紛争を生じ、遂に露文兩國交渉の結果、一九〇五年支那側は正式に漁業許可を與へるに至り、蒙古政廳は最初之を喜ばなかつたのでありますが、漁業税の収入もあり迷信も漸次打破され漸次之を認めるに至つたのであります。

此の地方の漁場は、此の貝爾湖から出て達賴諾爾湖に入る鄂爾順河の流域百三十露里間と。達賴諾爾湖の西岸に十余個所及其の北岸の湖口から流れ出る額爾古納河沿岸等全漁場數四十余個所であります。

現在では達賴諾爾湖の漁業が最も大きなもので全体漁獲高は一ケ年約三〇萬布度、全額八〇萬圓に上ります。鯉を主とし。狗魚、鮎、其他で、販路は露國への輸送が杜絶して居りますが東支鐵道西部線各地及ハルピンは勿論南滿洲の長春まで、年に依つては奉天大連まで送られます。漁期は夏季五月上旬より十月中旬、冬季は十一月より翌年の三月に至るまで、夏季漁は生洲に蓄へて冬季市場に搬出します。冬季は全部自然的に凍魚となるので麻袋に入れて運搬します。使用する漁網は地曳網で長さ四五〇尋乃至五〇〇尋、幅五尋内外のものであります。一ケ年の使用

數量一〇萬圓に上ります。

本年度夏季漁はウルシエン河の方が初期は相當良好でありましたが、蒙古の方は本年は降雨が尠なかつたらしく河水減少の爲め後期が思はしくなく漁獲量七、〇〇〇乃至一〇、〇〇〇布度位であつたらうその事でありませう。夏漁よりも冬季漁が重要なものでありまが時局の爲め、何時引揚げねば分らないといふので手控方針で網數を減じ、昨年度の全網數五十八張に對し三分の一減を豫想され、從て其の成績も氣遣はれて居ります。

本年は結氷遅延の爲め例年十一月十日頃より開始さるべきものが二十日乃至廿五日頃とならうと豫想されて居ります。

カタールエフ	一〇〇、〇〇〇元	二道街
サビヨールキン	三〇〇、〇〇〇元	同
ガンテムーロフ	一〇〇、〇〇〇元	四道街
ウオロシクオフ	本年は中止	

ツルヒン

本年は小出氏に委任經營

同和順

一七、〇〇〇

二道街

天合福

二〇、〇〇〇

同

張連喜

一〇、〇〇〇

三道街

吉順德

一〇、〇〇〇

同

怡昌號

六、〇〇〇

同

德興成

二〇、〇〇〇

四道街

洪興泉

三〇、〇〇〇

同

萬生和

一五、〇〇〇

同

同仁堂

八、〇〇〇

同

復興號

七、三〇〇

同

興隆號

一五、〇〇〇

大街

密輸貿易

此地の商業上の特色として、従前露支國境五十露里の間無稅地帯があつて、露領住民が土産物を齎らして此の地に来り、之を賣つて其代金を以て必要物品を購入するを常として居ました、其後右地帯は撤廢せられました、地方人は之に慣れ密輸出を爲すものが増加し、近時國境看視嚴重となるに従ひ、専門に是れを職業とするものを生ずるに至つたのであります。

そして幾ら嚴重にしても到底取締る事は出來ず、數台の自動車や駱駝車等で殆んど公然と密輸が行はれて居たのであります。織物や日用雜貨、スピルト等をブリアート人、蒙古人、韃靼人、支那人等が、或は自動車で、或は橋で、庫倫方面に送り、知多市、恰克圖よりウエルフネウージンスク方面、サヤン街道からミスシンスク、クラスノヤルスクル方面、イルクートスク、或は又遠く亞爾泰山脈を経てバルナウル、ピースク又はセミバラチンスク方面へ賣捌かれ、其の總額一ヶ年五百萬圓を越えたのであります。

支那側としても經濟斷交實現のため滿洲里市街を少しく離れた所に深い溝を堀つて密輸出を取締る事となりましたが、それでも到底根絶する事が出來ず、ロシヤも亦貿易政策上是れが取締りに非常に頭を悩まして來たのであります、計らずも昨秋以來チエルランツ留が暴落して、一チ



エルオンツが七圓位を維持して居たのが、俄かに三四五十錢となり、現在二圓位の相場々なつて仕舞ひましたので、折角命懸けて持ち込んでも非常に高値になり、殆んど賣れないのと、時には反對に損をしなければならぬ様な事がありますので、茲に自然的に密輸貿易が激減致しました。殊に時局以來兩軍相對峙して戦線を突破する事は困難となつたので、全然杜絶するに至り、密輸等業者は非常な困窮に陥つて居ります。之れが爲め滿洲里に於ける貨物の賣行が激減した事は明白な事であります。

對露貿易

昨年の呼倫貝爾獨立騒動の爲め尠なからぬ損失を蒙つたのと、張家口と外蒙との交通恢復して當地に本支店を有する大資本の毛皮商中天津へ移轉するもの等が出来た爲め、對蒙貿易は極度に沈衰しました。

然し本年に入つて幾らか回復の様子に見へ、外蒙輸出も多少行はれました。勿論完全な統計は得られませんが、支那側の調査に依り外蒙行の車輛數は次の通りであります。

外蒙行車輛數(自昭和三年十月至四年四月迄)

昭和三 年十月 十一月 十二月 四年一 月 二月 三月 四月	馬車又は駱駝車		自動車		合計	
	車數	積載量	車數	積載量	車數	積載量
	台	布度	台	布度	台	布度
十一月	一二二	三〇五〇	一一二	二四〇〇	一三四	五、四五〇
十二月	九六	二四〇〇	一四	二八〇〇	一一〇	五、二〇〇
四年一月	二一八	五四五〇	九	一八〇〇	二二七	七、二五〇
二月	一六六	四一五〇	一〇	二〇〇〇	一七六	六、一五〇
三月	三〇四	七六〇〇	六	一、二〇〇	三一〇	八、八〇〇
四月	二七九	六九七五	一一	二、四〇〇	二九一	九、三七五
合計	一、五二三	三八、〇七五	九〇	一八、〇〇〇	一、六一三	五六、〇七五

積載數量は大約馬車一台二十五布度、自動車二百布度で、貨物の種類は麥粉、粟、茶、綿布、出來合服、メリヤス肌着、食器類、砂糖、靴、防寒靴、等であります。

勞農露國の運送店ソウトルグフロツトが大半を取扱ひ、次いでトルヒン、ガーニン、フリード

マン、ブルチエンツオフ等が主なるものであります。

けれども是亦七月以來時局のため、ソウトルグフロツトも引揚げ、又輸出には一々面倒な支那側の許可が必要であり、大量のものは到底搬出が困難となりましたから、再び對蒙貿易も杜絶するに至りました。

輸出入統計

東支鐵道に依つて滿洲里から發送された數量は次の通りであります。(單位グラム噸)

自鐵道内	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
ウスリー鐵道へ	一〇、八三一	一六、九六五	一二、四七一	一五、〇四八	二五、六三九
滿鐵へ	五九二	二〇	二二	七	四八一
計	三一四	一、一四七	二六四	一四〇	一、一三九
	一一、七三七	一八、一三二	一二、七五七	一五、一九五	二七、二五九

右の内主なる貨物は

石炭	四、一七二	一一、三一一	七、九二〇	一一、〇七八	一七、六一八
建築用材	二、二二三	二、八八二	四〇八	四七六	五、六八九
魚類	四、五〇五	三、〇四六	二、九一九	一、九一七	一一八
織物	三	一八〇	五二七	八五三	一、四七〇
礦油	一	三一	一五七	四一四	四八五
穀類	一一四	六	九六	二四	三二
皮革	一二八	五六	五三	六四	六四
羊毛	一四一	三三	四三	一八	六六
毛皮	七二	六二	一一	六七	二一
家畜	一三四頭	一一六頭	一六五頭	二四五頭	六五六頭

又到着貨物の數量は次の通りであります。

自鐵道より	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
	一一、七九九	一七、三六〇	三三、一四六	三一、〇〇九	三三、七六一

ウスリー鐵道より	五七三	九一	一四六	八三	一七四
滿鐵より	一六四	一五七	一五九	九五	一〇三
計	一三、五一六	一七、六〇七	三三、四五二	三二、一八七	三四、〇三八
右の内主なる貨物は					
穀類	三、七四〇	三、八六〇	四、三八七	四、七七九	九、五三八
石炭	三、二八三	七、二一七	一八、三五四	一七、〇七一	一二、八三八
干草、及糧秣	一、六一七	七〇九	三、九二七	一、四一五	三、二六五
薪	—	—	九二六	一、四四二	六二二
建築用材	一九九	三七九	六七一	一、〇〇六	一、四九六
鐵製品	八九	一一七	二二六	一七七	二四四
鐵材	六〇	九五	一六八	一五八	二九二
羊毛	—	二二	五三五	一、〇一三	一、二〇七
酒精及酒類	二五五	二四二	三二五	二五七	三七九
種子油	三二二	三二二	一八四	一四七	六三

煙草	二三〇	二六七	二二六	一八六	一六〇
茶	一、二二三	一、七七二	四九四	四九三	四二五
砂糖	二八七	三三三	二二五	三九三	二九六
曹達	五六	四一	五九	五一	六四
洋紙	九七	一〇〇	五〇	四九	九七
蠟燭	三四	三八	五二	四九	三七
鹽	六六	一〇二	二六〇	一七七	二一四
織物	二九	一一二	九二	八六	一五八
野菜	三二二	三六四	五二四	五一五	七八一
家畜	七六四頭	七六三頭	一、五〇九頭	九〇三頭	五八一頭

備考 本表には後貝加爾鐵道との輸出入は除かれて居ります  
尙滿洲里稅關發表の輸出入數量は次の通りであります。

一九二六年      一九二七年      一九二八年

大	豌豆	668	1,618
豌豆	1,649	1,560	1,347
砂糖	54	8	6,678
紅茶	199	8	1,29
紅茶	118	2,477	1,29
綠茶	89	1	1
業煙草	387	1	1
刻煙草	3	1	138
其他穀類	109	1	53,248
小麥	298	274	580
粟	28	596	1,618

支那品	1,502	1	1
牛	16	2	1
乾魚	4,528	8,449	25,383
鹹魚	65,633	25,709	57,506
狐皮	1,892	2,650	5,450
獺皮	2,690	2,383	2,123
浣熊皮	379,581	283,131	95,016
貂皮	236,158	235,799	144,032
黃鼠皮	263,795	267,234	752,113
其他の皮	400	218	205
駱駝毛	7,999	16,236	16,969

其他色染棉布	六〇、九四七碼	六五、二五〇碼	八、〇〇〇碼
綿毛布	一五擔		七一擔
カタン糸		九六哥	
鐵材	一五〇擔		
鐵釘	六八		
鐵板	五三		
茶紙	一一擔	二、四〇九擔	一、八五九擔
洋紙	三二		
靴	一九二足		一六一足
狐皮	一一、一〇一枚	四、九二三枚	一、五三九枚
貂皮	一、三六四	一五五	
栗鼠皮	一、二一九、二三四	七二四、一四四	一、六五六
黃狼皮	三六、七二三	一九、四七七	一、五八二

外

粗布及細布	八八四疋		一四担
棉胎			
靴		一〇、七一一足	二、五二〇足
衣服			
蠟燭	五二九担		
紙卷煙草	六一		
石鹼		二〇二担	
國品			
粗布及細布	一、九五六疋	二〇疋	七六〇疋
綾及細綾	二五〇	四六九	
晒細布	三〇	八六	一、五〇〇
染綾染細綾	七〇八	四七四	二、二二三
更紗	二、三五一	三〇〇	

其他皮類	一六五、〇六二	三三五、四七二	一三二、〇八六
衣服	三〇海關兩	八、六三九海關兩	五、九一七海關兩
電氣材料	一七、一八〇	—	三、四五九
農業機械	—	三、一九五	二、六七〇
機械	—	二、一三六	四、七五〇
鐵道材料	九、五三八	一七、七九三	二、九四二

物 價

露支時局發生以來多數商人の引揚、物資輸入杜絶等に依り、物資が時局前の二割に減じて日一日と益々欠乏して物價は騰貴する一方であります。市外搬出を禁じて居りますので比較的潤澤であると云はれて居た食料品も漸く欠乏を來たし、露支人の主食物たる麥粉は廣信公司製も哈爾濱製も共に二三等品は品切れとなり、四等品で我慢しなければならなくなりました。

殊に住民の最も心配して居るのは燃料で、事件の爲めロシアよりの石炭が輸入されませんのでジャライノールよりの供給のみに依らねばなりませんのに、是れが又時々露側からの襲撃を受けるので、炭坑苦力は避難引揚げ、河水氾濫して坑内にも多少浸水したので採炭能力も減少し、軍隊駐屯の爲め軍事方面の需要増加して一般市民への供給不足となり、前月に比し三〇%平時(時局前)に比し實に八四%の激騰を示し、薪もロシアよりの輸入杜絶し、遠く興安嶺からの供給も充分でないので、市中在荷数は極度に減少し、硬木は殆ど皆無で、軟木は前月に比し二三%平時に比し六一%の騰貴で、零下五〇度にもならうといふ恐ろしい冬を控えて一般住民は越冬に對して極度に脅威を感じて居ります。

必需品の物價及騰貴割合は次の通りであります

滿洲里必需品物價			
品 名	單 位	現在物價	九月中物價
石炭(札賚諾爾)	一布度	〇、三五	〇、二六
同 (廣信公司)	同	〇、二五	〇、二〇
			平時物價
			對九月騰貴率
			對平時騰貴率
			二五、〇
			七五、〇
			九二、三

薪 (硬木)	一クボ	九〇、〇〇	八五、〇〇	七五、〇〇	五、九	二〇、〇
同 (軟木)	同	八〇、〇〇	六五、〇〇	五〇、〇〇	二二、一	六〇、〇
米 (滿洲産) 上等	一布度	六、八〇	六、六〇	六、〇〇	三、〇	一三、七
麥粉 (哈爾濱製) 二等	同	五、六〇	五、一〇	四、二〇	九、八	三三、三
同 三等	同	五、二〇	四、九〇	四、〇〇	六、一	三〇、〇
同 四等	同	四、三〇	四、一〇	三、八〇	四、九	一三、一
同 (廣信公司製) 二等	同	四、九〇	四、六〇	三、九〇	六、五	二五、六
同 三等	一布度	四、七〇	四、四〇	三、七〇	六、八	二七、〇
同 四等	同	四、四〇	三、六〇	三、四五	二二、二	二七、五
砂糖 ザラメ	一ラント	〇、二四	〇、二三	〇、一七	四、三	四一、二
同 角糖	同	〇、三六	〇、三五	〇、三〇	二、九	二〇、〇
同 鹽	同	〇、一五	〇、一三	〇、一三	一五、四	一五、四
牛肉 (骨ナシ)	同	〇、二五	〇、二四	〇、二〇	四、二	二五、〇

金融機關

金融機關としては次の通りであります。

廣信公司支店	四道街	開設一九一九年	王 樂 卿
一般銀行業			
滿洲甲商業銀行	三道街	開設一九二五年	キーシン
金融業 (株主のみに對する信用貸出)	代表者		
資本金 大洋	五〇、〇〇〇元 (全額拂込済)		
積立金 大洋	八、〇〇〇元		
株 金	一株五十元とし内日本人間にて十三株を所有して居ます。		

羊肉 同	同	〇、二五	〇、二〇	〇、一七	二五、〇	四七、一
豚肉 同	同	〇、四〇	〇、四〇	〇、四〇	—	—

決算期及配當 毎年四月一回決算、成績順調にて開設の翌年即一九二六年度には一四%一九二七年度は二六%の配當を致しました。

極東銀行

一般銀行業

一道街

開設一九二四年

特にロシアの官營事業と關聯して蒙古貿易の投資に力を注いで居りましたが、露支時局に累されて本年八月十二日閉鎖しました。

中國銀行

二道街

開設一九二六年

海關の收稅事務、

元本東銀行は中國海關内に在つて海關稅金の收支のみを取扱つて居たのであります。一九二六年露亞銀行閉鎖と同時に其構内で一般銀行事務を開始しましたが、本年二月以後再び之を中止して目下は稅關の收支のみを取扱つて居ます。

貯金組合

開設昭和三年十二月

會員

三八名

株數一〇〇株 (一株六〇圓、五圓宛毎月一回拂込)

在留民相互の金融機關であります。

右の外に日本人の質商五軒と、支那の當舖(質屋)及錢舖(兩替)があります。支那商は次の通りであります。

店名	營業種目	資本金	執事	所在地
興盛昌	質兩替	三〇,〇〇〇元	趙增	大街
萬茂當	同	三〇,〇〇〇	呂鳳岐	四道街
同仁當	同	一一,〇〇〇	陳文濤	同
源泰當	同雜貨	一〇,〇〇〇	陸甫	同
同春當	同	六,〇〇〇	陳文濤	同
東盛銀號	兩替	一一,〇〇〇	鮑松甫	大街
東興當	同	一〇,〇〇〇	沈景文	大街

兩替商は兩替及送金等を取扱ひ、興盛號が最大であります。時局以來何れも或は閉店、或は



閉店同様で、金票對大洋の相場はありましても取引は出来兼ねる様であります。

通貨

市内に通用する貨幣は、主として支那大洋紙幣で日本の紙幣も通用します。  
 大洋紙幣は中國銀行、交通銀行、東三省官銀號、邊業銀行、及黑龍江廣信公司發行のもので種類は十元、五元、一元、五角、二角、一角、五分の七種であります。日本紙幣は朝鮮銀行券が主であります。勿論日本銀行券も同様流通します。

ロシアのチエルオンツ留紙幣は一時非常に流通しましたが、露國が國外流通禁止以來、其姿を没し僅かに滿洲通過旅行者が多少交換するに過ぎません。

工業

原料としての地方物産も乏しく資金も潤澤でなく水利の便なく又販路が局限されて居ります爲めに工業は餘り發達致しません。

皮革工場	露	七	支	一
製粉工場	同	一		
ウオツカ及飲料水工場	同	二	支	一
電燈會社	市營	一		
石鹼工場	極下級のもの若干			

右の内主なるものを掲げますと。

工場名	開設	資本金	一ケ年能力	職工數	所在地	代表者
カタールエフグルブ ノーフ皮革工場	一九二二年		一五〇、〇〇〇元	四〇	サレチスキ ホシヨルカ	カタールエフ
スーリノフ 飲料水工場	一九〇四年		一五、〇〇〇	八	二道街	タラス、スリノフ
ツーリアトス ウオツカ工場		五〇、〇〇〇〇元	六〇、〇〇〇元	一〇	一道街	ツーリアトス
發電所	一九〇六年	一〇〇、〇〇〇元	一六八KVA	四四	二道街	市自治會

鐵業

滿洲里の西南國境に近くハラノーフ炭坑があります。廣信公司の經營で出炭量は夏期一日一〇〇〇一、五〇〇布度、冬期一日三、〇〇〇一四、〇〇〇布度、最大能力一日五、〇〇〇布度ですが、埋炭量は詳ではありません、炭質はジャライノール炭よりも粗悪ではありますが、薪炭不足の折柄、當重要な役目を演じて居ります。

主なる商店

商店は支那商店最も多數であります。資産あるもの少く、却て數に於て少いけれども實に於て露商の方が優れて居ります。即ち主なるものは次の通りであります。

店名	販賣種目	資本金	所在地
ウキゴダ	紙物雜貨		大街
プログレス	同		同
アイゼンベルグ	文具		同
アムール商會	靴靴		同

ウスベルサルド	同		同
ツルヒン	蒙古貿易	一五〇、〇〇〇元	一道街
カタエフ	漁業	一〇〇、〇〇〇元	二道街
サビヨールキン	同	三〇〇、〇〇〇元	同
ガンテムーロフ	同	二〇、〇〇〇元	四道街
ニキチンスカヤ	藥舖		大街
ニキチンホテル	旅館		同
ロバート煙公司	煙草	毎月賣上高五〇箱	本店ハルビン
ビーデルマン	羊毛	年買付高四〇〇噸	本店ロンドン
手皮會社出張所	毛皮	主任ワルシヤフスキー	支店天津
ロバートスミス商會出張所	同	年買付高二〇〇噸	本店天津

支那側には商務會あり民國元年の設立で會員數四七〇名のり、支那側商店の主なるものは次の通りであります。

洪發盛	福順泰	永和盛	萬豐義	恒達義	聚義長	仁義	永和發	北華天	同盛永	恒泰店	怡昌號	双盛泰
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇
四道街	同	同	新市場	大街	新市場	同	同	四道街	同	四道街	三道街	大街
劉寶學	李起靈	孫成德	孫文英	陶中三	李芳春	龔鶴亭	鄭文一	李雲鳳	王雲鳳	趙恭壽	邱芳庭	李東山

萬茂盛	洪興和	東興永	同聚盛	福玉祥	復合成	恒盛永	隆泰號	恒裕號	福海長	吉順福	義聚德	隆聚盛	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一〇、〇〇〇元	三五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇
四道街	同	同	同	同	同	大街	大街	大街	同	同	同	同	同
呂鳳岐	蔣麟德	李文明	盛文	李耕甫	鮑書甫	李書五	王獻臣	于石臣	于豫生	李字祥	張治文	田茂林	

興順公 藥種 一、二〇〇 四道街 杜興盛  
 亭豐達 同 一、〇〇〇 大街 劉

一時ハルビンの露百貨店デューリン商會も大街に出張所を置きましたが成績が思はし、なかつたので引揚げて仕舞ひました。又時局勃發以來ウ井ゴダ、プログレス、アイゼンベルグ、ニキーチンスカヤ藥舗、双盛泰、等は僅かに營業を繼續して居りますが、万茂盛は閉店同様五六人の留守番が居るのみで、ガラン堂です。隆泰、復合成等は全然閉鎖、其他殆んど大部分が齊々哈爾又はハルビンに引揚げましたが、此の内家屋敷等の残つて居るものは平穩ならは戻つても來ませうけれど、全然滿洲里に早切を付けて他に移轉して仕舞つたものも相當あるようであります。他にロシヤの運送業者ソウトルグフロツトが對蒙貿易に従事し、其の大半を取扱ひ相當活動して居りましたが、時局と共に極東銀行同様、保管貨物全部をロシヤに轉送してロシヤ領事館員と共に引揚げて仕舞ひました。

在留日本人

日本政府は大正七年西比利亞出兵に伴ひ、居留民が増加しましたので、此地に哈爾濱總領事館から館員を派して領事館事務の一部を取扱はしめましたが、同年十一月在齊々哈爾濱領事館の出張所とし、呼倫貝爾特別區域一帯を管轄せしめましたが、撤兵と同時に居留民と共に一時引揚げました。

其後地方の秩序稍々恢復し、邦人の居住するものも漸次増加し、接境露領の形勢未だ不安なるため是れが保護並に取締を要するものあるに至りましたので、大正十一年六月領事館を開設致しました。

七月末現在の日本領事館の調査に依れば滿洲里在住の日本人は次の通りであります。

内地人	戸數	男	女	口計
鮮人	五一	五一	八四	一三五
計	一七	二〇	二九	四九
計	六八	七一	一一三	一八四

右の内、内地人の職業別を見ますと

菓子商  
大工  
物品販賣業  
賞商  
商店員  
旅館料理店  
遊戯場  
理髮業  
運輸業  
官公吏  
教員  
醫務に關する業  
寫眞師

一 一 七 二 五 九 四 二 一 三 一

矢張り、日本の海外發展の第一線に立ち、其の地盤を開拓して行くといふ娘子軍が最も多數で

あります。領事館では是れ以上の増加を許さず、讓渡も認めず、自然的に消滅せしめる方針たそ  
うであります。國辱として彼等を排斥する前に、男子達の不甲斐なさを考へて頂き度いと思ひ  
ます。尤も最近是不正業等は減少して正當なる業務に従事する者が増加して參りました事は喜ぶ  
べき事であります。然しまだく資力の豊かな者が無いといふ事は余儀ない事でありませう。  
今回の紛争に際しても一時女子供のみはハルビンまで引揚げた事もありますが、今は全部滿洲  
里に歸り各自自重して、自衛の途を講じて居ります。日本人の家々には日の丸の旗がヒラ／＼風  
になびいて居ります。そして其の旗の下にあくまでも踏み止まつて地盤の開拓に努力しようとい  
ふ各自の固い決心が伺はれます。  
たゞ市況不振のため思ふ様な商賣も無く、只管に平和の解決の早からん事をのみ祈つて居るの  
は氣の毒であります。

營業種目	店名	經營者	所在地
雜貨 (漁網取次)	朝日洋行	島崎兼男	五道街
同	池田商店	池田平八郎	四道街



同	徳栄樓	同
飲食店	金鳥	同
風呂	岩永虎藏	同
	中川全三郎	同

尙富地に在る鮮人は労働に従事し、憐めな世話を営んで居ります。

將 來

管でだに不振を啣つて居る滿洲里が今度の時局のため受けた損失は莫大なものでありますのみならず、昨年蒙古獨立騒動の時も不尠影響を受けて居るので、一度でも非常に應へますに、この度重なつてはこれが回復は尙更容易な事ではありません。

滿洲里として對露密貿易も、對蒙貿易も共に多くを望めぬ現状に在つてはタルバカン嶺と、漁業の二つに頼らなければなりません。それさへ好況は到底期待出来ませんし、他の市街の様に經濟上の背後地が全然ありませんから、將來の發展は覺えないと云はねばなりません。

ロシアとの貿易が回復しない限り、矢張り淋しい國境驛として終始するに過ぎません。

## 二、札 賚 諾 爾

札賚諾爾は滿洲里の東南二九キロの地點に在ります。石炭坑の所在地であります。

従前からの札賚諾爾驛の外炭坑に近く、札賚諾爾炭坑驛が新設されました。市街も炭坑と札賚諾爾驛との方に分れて居りますが、何れも炭坑を中心として居るものでありますから、將來は炭坑驛の方が發展致しませう。

驛勢から見ましても石炭以外多少家畜の出廻りがある位で、外に滿洲里に對し蔬菜類を供給する位であります。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
發送貨物	一五六、六八五噸	一〇七、七〇〇噸	一四〇、二二三噸	二〇一、二二六噸	二二一、〇一八噸
内 譯					
社用品	一二二、八三五	八二、六〇〇	八八、一三五	一四三、八三〇	一六八、六九二
普通貨物	三三、八五〇	二五、一〇〇	五二、〇八八	五七、三八六	五二、三二六

普通貨物の内主なるもの

石炭	三三、五九三	二二、三七二	四九、一〇二	五一、四八〇	四五、九二六
魚類	二四	四一八	二、五三六	五、五一五	六、〇六〇
羊毛	八五	一六〇	五二	一〇九	一二七
毛皮	一四	一二	四九	四〇	二七
乾草	一	一	六三	九〇	七八
家畜	六九、九八八頭	一二、九三九頭	四一頭	八〇四頭	二、二八頭
到着貨物	一五、九〇七噸	八、九六八噸	一三、七五八噸	二〇、〇五五噸	三〇、六五八噸
内譯					
社用品	一四、〇五一	七、七一九	一一、八〇七	一七、二七四	二五、一一六
普通貨物	一、八五六	一一、二四九	一、九五二	二、七八一	五、五四二
普通貨物の主なるもの					
穀類	一、三二四	八八九	一、四〇七	一、九九七	三、〇三二
乾草	三四〇	一三	三七	九〇	一、三六四
木材	八五	一	六一	一〇一	四〇四

砂糖	七三	一〇八	五八	七七	四二
煙草	一〇	三二	一二四	五三	六二
食料品	七四	一三二	八二	一二四	五一
酒類	一	七	四八	七二	五四

札賚諾爾炭坑

炭坑は鐵道線路の左右に在り、車中から望見し得られますが、もとブロンニコフ技師が一九〇一年自ら踏査して札賚諾爾驛の西方四露里の地點に炭層三サージンの褐炭脈を發見し、此の調査に基いて一九〇四年より採掘を始めたもので、是れ即ち現在のブロンニコフ坑であります。

現在では、ブロンニコフ坑(舊稱第一坑)ナホードカ坑及第二坑の三坑區より成りブロンニコフ坑は堅坑掘でありますが、ナホードカ坑は露天掘で、第二坑は閉鎖中であります。又ブロンニコフ坑の一部も一九〇八年火災を起して以來未だ全く鎮火するに至りませんので、第五號及第六號坑の採掘は中絶し、障壁を造り土砂を以て切りに防火に力めて居ります。



曾ては鐵道に一年百万布度以上を布度二哥半で納入する條件の下にスキデルスキーに請負はした事もありますが、契約期限満了と共に東支鐵道の直營となりました。

露天掘は仕事が廉價ではありますが、炭質は堅坑より遙かに劣り殊に本年は降雨が多く出水の爲め、破損大損害を蒙り復舊に至らず全然休止し、堅坑のみに依つて居ります。

堅坑は二五〇馬力の捲揚蒸汽機械を備へ、選炭機もあり直、ちに鐵道線に連絡して居ります。普通は坑内の湧水も少いのですが、本年は浸水個所も相當あるのみならず時局の爲め支那労働者が避難し苦力の稼行もや止ましたので、出炭能力著しく低下し約八万噸を減じ加方供給は充分に行ひ兼ねるらしく、嚴寒に向ふ折柄とて地方民をして大なる脅威を感ぜしめて居ります。

即ち参考迄に最近五ヶ年間の採炭量を掲げますと次の通りであります。(單位キロ噸)

一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
合計採炭量	二〇〇、五三九	一二三、四四五	一五二、〇九九	二二四、四二一
東支鐵道使用	一三六、八六二	八三、六〇〇	八四、二七四	一五〇、二四五
炭坑自用	二二、四五七	一九、一九四	一八、九〇六	二二、六四〇
				二五、一八五

地方販賣	四二、二二〇	二〇、六五一	四八、九一九	五二、五三六	四九、二八一
------	--------	--------	--------	--------	--------

埋炭量に就ては滿洲通の地質學者E、E、アーネルト氏が十四億四千萬布度と測定しましたが既に採掘された三億五千万布度を削除して尙約十億九千万布度を蔵して居る譯であります。

炭質は光澤なく、褐炭に類似して比重は極めて軽く粉炭となり易く、含有炭素分は四十五%で一布度七を以て撫順炭の一布度に相當し、骸炭製造には不適當であります。

撫順炭との比較表を示しますと次の通りであります。

	薪一立方サージンに相當する石炭	蒸發量	熱量カロリー	石炭一噸に要する火力百分率
札查諾爾炭	二六五	二、九〇	四、八二九	一七〇
撫順炭	一五〇	五、〇〇	六、二三〇	一〇〇
ハラノルスキー炭	二七一	二、八三	六、二五九	—
ウグロフスキー炭	一八七	四、〇〇	四、五六〇	—

東支鐵道の使用石炭の内譯は次の通りであります。(單位布度)

	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
ジャライノール炭	一三六、八六二	八三、六〇〇	八四、二七四	一五〇、二四五	一七九、八二四
撫順炭	六五、三〇一	八、七六二	四、四四一	—	—
蘇城炭	五六、七〇九	九〇、四八八	九五、三六五	九七、〇五三	一五四、四九一
穆稜炭	—	八、三八二	五七、四六二	一〇三、九二〇	一五九、一四九
吉林炭	—	八八	—	—	—
コークス	七一七	—	一、〇六九	一、一一六	一、七五一
木炭	三七三	一八三	三〇八	五六一	四九五

東支鐵道としては穆稜に良質の炭坑を發見して以來穆稜炭を多く使用するに至り、撫順炭の使用を廢しましたが、札賚諾爾炭も東支鐵道社用品として使用せらるゝものが大部分で、地方供給は第二義的に取扱はれて居ります。炭質の關係上東支鐵道としても將來に對し、穆稜に全力を注ぐものと思はれ、ジャライノールには是れ以上の設備及發展は期待する事が出來ますまい。因に今回の時局に際しては滿洲里よりは先に砲火を交へた所で、支那軍も頑強に抵抗したそう

でありましたが裝甲列車もあり、壘壕等も望見し得られ戦争氣分が一面にみなぎつて居りました。在留日本人の營業者は時計商の二軒に過ぎません。

	内地人	戸數	男	女	人口計
鮮人	六	五	二	七	九
計	—	—	七	一〇	一七

### 三、海 拉 爾

位 置

海拉爾は滿洲里の東一八七キロ、哈爾濱の西七四八キロの地點、東經百十九度四十四分、北緯四十九度十四分呼倫貝爾の中央に位し、伊敏河と海拉爾河との分流地點の南方約一里の谿地に在ります。東北西の三方は小砂丘に圍まれ、南方は曠漠たる蒙古の草原であります。

海拉爾は金時代から常に戦役の中心地として呼倫城蒙古人のアンバン、ホトの所在地でありました市街の北方に往時の塞堡又は城基の跡があります。

清の乾隆八年呼倫貝爾を黒龍江省六副都統管區の下に滿洲八旗に準じて旗制を設け、十七旗五總管とし、副都統府を海拉爾に置き之を管轄せしめました。其後清朝は光緒三十三年巡撫を、翌三十四年呼倫道臺を置いたのであります。

大正元年呼倫貝爾統管勝福は露國の暗助を藉りて呼倫貝爾の自治を宣し、自ら副都統となり地方行政に任じました。然るに大正九年一月支那政府は大總統令、以て此の自治取消を聲明し、直ちに海拉爾の呼蘭廳を廢し、善後事宜督辦公署を置き、呼倫貝爾地方長官の事務を執らしめ、ましたが、更に大正十四年臨時執政令を以て呼倫道と改め道尹を置き今日に及んだのであります。而して本年道尹を廢して交渉員としましたが、依然地方民は道尹と呼で居りますが、蒙古に對しては支那側の勢力の及ばぬ所がありますので一方蒙古政廳即副都統公署が其獨立を取消された後

と雖も呼倫、道尹と共に黒龍江省々長に隸屬して相對立して對蒙の事項に限り依然として之を處理して居ります。

古來此の地は北陞の要鎮として重きを爲し、往時清朝が衛戍を置いた所以も此處にあります。

又此の地の名稱は古くから呼倫貝爾と呼ばれ、土人は一般に今尚ほ此名稱を呼んで居り、海拉爾は其の別名であります。三十餘年前までは北蒙古の一部落で、僅かに總管衙門を置かれた政治的治區に過ぎなかつたのでありますが、東支鐵道の開通に依つて經濟上にも特に重視せらるゝに至り、東支鐵道は對蒙貿易の大中心地となすべく力を注いだので、露支人の來任者も増加し、物資の集散も多く、急速の發達を遂げ、明治三十八年日支北京條約に基き開市場となり、且つ蒙古貿易の樞要地として幾度かの政争にも經濟的影響も無く、最近市街の膨脹と商業の殷盛に目覺しいものがあります。

海拉爾は東支鐵道沿線中最も寒さの激しい所であります。

平均温度は次の通りであります。

一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

一九二八年平均 (1)27.6 (1)25.2 (1)23.9 20.9 18.1 17.4 15.2 14.1 13.0 11.6 10.6 7.4  
最近十五年平均 (1)26.8 (1)23.0 (1)22.6 19.5 17.1 16.0 14.0 13.0 (1)11.8 (1)11.3 7.4

右は平均温度であつて冬季には零下四〇度を越える事珍らしくなく最も厳しい時は五〇度にも達する事があります。

### 市街概観

市街をめぐつて白い砂丘があり、蒙古の砂漠を歩む心地で此の砂丘に上れば廣々とした草原で滿洲には珍らしい松林が遙かの西の方まで續いて居ります。牛や馬が放牧され、實に美しい景色であります。颯々の松籟を聞きつゝ、眼を轉すれば市街は地圖を擲げた様に一瞬の裡に展開し、伊敏河に沿ふて颯々と連つて居ります。

左方即ち北を限る山と山との間は吉拉林への道が通じ、北と東との西山の間は東支線の鐵橋が見え、それから先づ機關庫や停車場が目につきます、此停車場を中心としてもこの東支鐵道附屬地、現在の特別區即ち新市街が千四百四十四万坪で、線路の北側が靜かな鐵道用廳舎及舍宅町で我々には殆んど用事の無い所であります。汽車から下りれば直ちに線路を越えて南に殷盛な商業區に出るのですが。純露西亞式の建築で、練瓦造りの商賈が軒を並べて居ります。回々敎寺院の三日月のしるしも珍らしく感じられます。その東は工場地帯で洗毛場や酒釀場、皮革工場等があるのですが製粉會社が背が高いのでその薄青色の鮮やかな建物が代表的に目立ちます。新市街の南に相接して舊市街があります。海拉爾の内外の支那町で、一帯に低くみすばらしい土磚泥屋根であります。最近新らしく建つた支那風呂や其の附近は煉瓦建で面目を新たにしつゝあります。關岳廟や、劇場等が指摘されます。城内は南北約五町中央大街の兩端に土磚木樓の城門が残つて居ります。そして此の丘の麓には呼倫貝爾の政廳が大きく一廊を成して居ります。蒙古の役人部落西屯、そのまた彼方遙かに蒙古部落南屯が指摘せられ、甘珠爾や蒙古深く通する道が遙かに續いて、其の間伊敏河は銀蛇の様に蒙古の方から流れて参ります。

道路は非常に悪く、一寸雨が降れば泥濘馬脚を没し、又天氣が續けば、黄塵萬丈、息も出來な

い位であります。

蒙古人の二間位の細長い棒を振り廻して牛や羊を巧に逐ふて行く者や、其羊を軒別に賣つて行く者、自由に走驅する騎馬の男や、薄汚れた着物を着て居る者等が先づ目に付きます。大きな輪の牛車が何台も續いて行き、駱駝も引かれて行きます。流石に牛や馬や羊の多い事、又市中至る所肉屋の多い事として其の店頭で平氣で豚等を屠殺し、料理して居る事カマボコ馬車を造つて居る店の多い事、看板に露語と蒙古語と支那語とが併記されて居る事等、沿線中最も物珍らしい市街であります。

滿洲里から此處に参りますと、町全体が活々して居る様に見え、小さい乍らも活動寫眞館も開かれて居ます。又乞食や賭博場の多い事も其の殷盛を物語る實證であること云はれて居ますが、矢張り近年は幾分市況不振を免れぬ模様であります。

### 人 口

海拉爾の人口は新舊市街を合して約二万五千、内七割が支那人約、三割が露人で蒙古人は不定

であります。先づ一千人位であらうと申します。

支那人は多く山東、及山西人で、山東人は主に勞働に従事し、山西人は商賈を營んで居ります。露人中には多數の猶太、アルメニヤ、韃靼等があり、主として商業に従事します。蒙古人と稱するものには達胡爾、巴爾虎、索倫及チブチン族等があり、達胡爾族は古く一八三四年海拉爾建設當時齊々哈爾から移住し、海拉爾及其附近に於て農業に従事します。巴爾虎族はもと哈爾濱地方から移住したもので牧畜を生業とし、索倫族は興安嶺の東部から移つたもので剽悍で狩獵を業とします。チブチン族はブリヤート族と同種族で、以前齊々哈爾附近に在つたのが一八三二年滿洲政府から呼倫貝爾の一地を得て以來遊牧に従事して居ります。

### 市 況

海拉爾は呼倫貝爾に於ける經濟上の首都で内蒙古及外蒙の北方を取引範圍内に置き、南方張家口に對する北の市場として重要な地位を占めて居たのであります。

海拉爾商人が盛んに取引しましたのは呼倫貝爾の東部諸旗、内蒙の東西烏珠穆沁及巴林、阿魯

科爾沁、札魯特等の各旗でありました。勿論哈拉哈等の外蒙へも進出して居たのであります。

然るに一九二五年以降外蒙の政治的變化より國境の封鎖が嚴重になり、商人の進出困難となり同方面との取引は漸次衰微するに至りました。一方内蒙地方との取引も漸次衰へ、最近は殆んど呼倫貝爾を限り、昔日の如く廣汎なる取引範圍を有して居りません。従つて其の商業的出品とする畜産品即ち牛や、馬や、羊及羊毛等の出廻りが近年著しく減少して海拉爾の將來に暗影を投げた居る事は遺憾であります、而かも時局以來牛、馬、羊や牛馬車の徵發を恐れて何れからの出廻りも全然杜絶の状態になつて仕舞ひました。

又海拉爾の最も密接なる關係を有する甘珠爾の定期市が昨年は呼倫貝爾獨立事件のため、又本年は露支紛争のため二ヶ年引續き休止されたので、當地商店は莫大なる損失を蒙りました。

當地の對蒙雜貨商は右定期市に於て一年の半額を賣上げ、残り半額を當地で賣上げますが、平年甘珠爾市の賣上合計五〇萬元乃至六〇萬元で此の利益が少くとも二割はある筈で、此の外此の定期市で現金又は牛馬羊等で決済さるべき賣掛金が全然回收不能になつた譯であります。一年五〇萬元として二年で一〇〇萬元、其の二割二〇萬元の利益がフイになり、賣掛金は回收出來ず、

のみならず事件以來蒙古一の輸出には一々支那側の許可を要し、多量の輸出は勿論出來ませす取締りも嚴重なものと、戦争を恐れて蒙古からの來客も激減して平時の一割に過ぎないそうで、自然ハイラルでの賣上げも減少して居ります。

従て一般の景況も沈衰を免れすこんな不景氣は珍らしい事でありませす

氣の早い支那商の内には時局を心配して商品をハルビンへ轉送して仕舞つて滿洲里と同じく店を殆んどガラン堂にして、店飾りをタオルやセルロイド人形等で誤同化して居る者もあり、外商筋ではストツクの羊毛や羊皮、牛皮の處分を急いだものもある位であります。

當地では滿洲里や札魯特諸商の如く、直接の被害はありませす、左程切迫して居ないのであります、約千名位の兵隊が各商家に分宿し、商民からは厄介物扱にされ、又一般に滿洲里が若し赤軍に占領される様な事があつては當地も直ちに危險に陥るといふので神経が過敏になつて居ると却て駐屯支那軍隊が何時どんな亂暴をするか分らないといふ心配からであります。

免に角表面繁華に見へる此の海拉爾さへも詳しく立入つて見れば矢張り輸出入共に不振を免れず、何處も同じ秋の夕暮の感を深くします。

對蒙輸出品

蒙古に對し輸出せられる重なるものは磚茶、煙草、麥粉、砂糖、燒酎、ヌビルト、綿糸布、絹織物、豆油、等であります。

主として粗雑な支那製品でありますが、日本品として最も有望なものは綿布及メリヤスカタン糸、並に磚茶であります。メリヤスカタン糸は最近一種の流行となり居り、カタン糸は衣服を縫ふに用ゐるもので現在既に日本品を多く使用して居ります。綿布は染綾及染細綾最も多く七アルシン又は七アルシン半が丁度着物一着分なので、之を一反として、反賣で切賣致しません。大抵日本綿布を哈爾濱で染色するもので、蒙古人の嗜好する色は藍、赤、黄、海老茶、綠等で、白は清淨無垢を表明しますが、又不幸を意味するので多く用ゐられません。蒙古人は洗濯する事無く、又褪色に平氣なのは不思議な程であります。丈夫な事を必要とします。けれども矢張り最近は多少弱くとも外觀の美なるものや高いものよりは安い物の方が賣行がよいのは何處とも同じ様であります。

磚茶は綠磚茶であります。日本品は色が青味を帯び、滋味が強過ぎ、是を飲む時は下痢を起すとして嫌はれ、主として漢口物を使用して居ます。彼等は日常間斷無く是を飲用するので、日本の如く腹にもたれる様なものは不向で、却て幾ら飲んでも手客への無い程のものが歡迎され、色も黒味が、つた方がよいといふ事があります。

砂糖はザラメ又は粉砂糖より角砂糖を好みますが、携帯に便利な爲めでありませう。此の外最近ヌビルトや燒酎等の輸出が増加して來ました事は注意すべき事であります。

而して對蒙取引の方法に二法あります。一は物々交換に依るもので、他は現金賣買であります。が、信用ある商店は主として物々交換に依り、大なる利益を収めて居るのであります。現金取引の場合は大洋票又は大洋銀何れでもよろしいのですが、大洋銀の方が喜ばれ、大洋票は場合に依つては多小の打歩を生ずる事があります。

定期市の外は彼等の通路に天幕を張つて待つか、或は彼等の根據地を巡つて賣買するものであります。

又海拉爾へ來る蒙古のお客に對しては問屋で無料で宿泊せしめ、注文に依つて其の間屋が必要

品を供給又は買ひ集めるので、大抵二三日位の滞在に過ぎないのであります。城内の對蒙雜貨商の店構は日本の雪國に見る様に軒下に黒い注が幾本かあつて、廂の下を往來する事が出立陳列販賣のものは尠く、商談する廣い部屋があるのみでその家の裏に是等のお客の宿泊所があります。又是等の商店はハイラルに在る店員の二倍乃至三倍のもの即ちハイラルに十五名の店員が居るとすれば四十五名位のものゝ蒙古各地へ出張販賣に従事させて居るのであります。此の出張員は我々の想像以上の慘苦を嘗めて、一日一食で後は蒙古人の茶を貰つて飲み土に寝ね、草に臥して次から次へと廻つて行くのださうであります。又値段は内地の魚市場に於けると同じく、長い袖の中で指を握つて交渉しますが一寸奇異に感じます。

主なる雜貨問屋は次の通りであります。

大	利	號	信	和	成
長	聚	源	晉	義	長
聚	長	盛			

蒙古よりの輸入品

蒙古はまた遊牧の時代であります。従て羊や牛や馬は彼等の財産であり、生活必需品であります。蒙古の地は天然の水草が豊饒で、地勢も亦最も牧養に適して居りますので、眞に天興の好牧場であります。牧畜の盛んなる亦宜なる哉であります。

従て蒙古からの輸入品は畜産品で、牛、馬、羊、羊毛、皮革、毛皮、バター等で、此の地の畜産貿易は北滿第一を以て稱せられます。

海拉爾へ出廻る主なるもの、一ケ年の數量は大約次の通りであります。

羊	二〇〇、〇〇〇頭
牛	一一、〇〇〇—一八、〇〇〇頭
馬	一〇、〇〇〇頭
羊毛	一一〇、〇〇〇布度
タルバカン(秋季産)	四〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇枚



問 (春季産)

凍結牛皮	八〇,〇〇〇—九〇,〇〇〇枚
干燥牛皮	四〇,〇〇〇—五〇,〇〇〇枚
馬皮	三〇,〇〇〇—四〇,〇〇〇枚
干燥羊皮	一〇,〇〇〇—二〇,〇〇〇枚
羊皮(毛を切り取りたるもの)	二〇,〇〇〇—三〇,〇〇〇
仔羊皮	二〇〇,〇〇〇—三〇〇,〇〇〇
栗鼠皮	四二,〇〇〇—五三,〇〇〇
鼬皮	一一〇,〇〇〇—一三〇,〇〇〇
狐皮	三,〇〇〇—四,〇〇〇
狸皮	七〇〇—八〇〇
兔皮	一,〇〇〇枚
犬皮	五〇,〇〇〇—六〇,〇〇〇
	三,〇〇〇—四,〇〇〇

ウジムチンが中心で、同地で物々交換すれば、タルバカンが二〇仙、白兔二〇仙、羊毛拔毛布度六元位、之れがハイラルではタルバカン二元七、八〇仙、白兔は一元二〇仙位で支那人が競争して買ひます。

昨年度は暴風雪が度々あつたので、羊が多く倒れましたので羊毛の數量を減じたのみならず品質も非常に低下しました。之は營養不良の羊が多く、之から剃り取つたものですから、自然よいものが得られなかつたのであります。

羊毛の出廻り高は次の通りであります。

羊毛海拉爾出廻高	一九二七年	一九二八年
内 釋	一、五〇〇噸	一、〇〇〇噸
ウジムチンより	五〇噸	一七噸
齊々哈爾より	二五	二五
呼倫貝爾より	一、四二五	九五八

呼倫貝爾のゲーシ、ツアガン、ゲーシ、フーフ兩部及ウルシユン河流域等からは九月末、ウジムチンよりは十二月中旬に出荷して來ます。ウジムチンからの搬入が減少しましたのは昨年の騷擾の影響で、尙途中輸送困難の爲め輸送賃も呼倫貝爾各地よりの分に比し約倍額を要します。

地方別	年別	單位	運賃
呼倫貝爾の諸部	一九二六年	一キログラム	四〇—六〇仙
	二七年	同	同
	二八年	同	四〇—二、〇〇〇
ウジムチンより	一九二六年	同	八〇〇—一、〇〇〇
	二七年	同	八〇〇—一、〇〇〇
	二八年	同	三、〇〇〇以上

七割はモスコウへ三割がアメリカへ輸出されますが、當地方の羊毛はまだ餘り改良されて居りませんので品質が悪く、薄手の毛織物には適當せず、毛布や厚地の餘り上等でない羅紗等に使用されます。日本へも張家口又は天津を経て多少蒙古羊毛が輸入されて居ります。毛皮が多く出ますのはアルゲン河畔、ウラフ河口、ウジムチン、齊々哈爾、及バイツアン等でバイツアンは遠隔の地ではありますが、最も多く出荷します。一九二七年は犬一万枚、脚五千枚、狼及狐一千枚であります。

此の外羊皮も有望で、寒氣の爲め斃死したものは海拉爾に搬出されて皮を剥り取り、羊皮として輸出されます。海拉爾屠殺場から出る皮革は、當地のアクーロフ工場に賣られる外哈爾濱にも移出せられます。主として牛皮の乾燥したものであります。

東支鐵道の調査に依りますと呼倫貝爾に於ける家畜の數は一平方キロメートルに對し〇、五頭の割合で其の内譯は次の通りで毎年の平均増殖率は牛馬七%羊及豚は一%見當であります。

牛	一七〇、七〇〇頭
馬	一八〇、九〇〇
豚	二、四〇〇
羊	一、五九八、〇〇〇

現在海拉爾に出廻るものは家畜も毛皮も皮革も總て呼倫貝爾地方からのみで、非常に減少し、それより遠隔の地即ち最も重要な地方の内蒙はロシヤの勢力範圍となり、總てロシヤに吸収され、當地方へ出るには嚴重なる取締と煩雜な手續が必要な爲めに殆んど其の出廻りを見なくなりました事は海拉爾にとつて大なる影響と云はねばなりません。一時大い活動した彼の英國食料

品曾社も一九二七年以來休止して居るのも其の一面を雄辯に物語るものであります。

ロシアとしても對蒙貿易を非常に重要視して、或は鐵道に依り或は自動車に依り、あらゆる交通機關の整備を計ると共に、對蒙輸出品には浦沙斯德より連絡特別割引運賃の適用あり、安價に供給し得る様力めて居ります。

海拉爾に於ける主なる畜産品取扱商店は次の通りであります。

ワルシヤフスキー(カプラン)

ビーデルマン

ロバート、スミツト、

カルロビツツ、

セルスチ(羊毛會社)

アクーロフ

徳發永

皮毛公司(蒙古人の經營で支那側との連絡あるも資本不足)

### 對露貿易

海拉爾は從來蒙古貿易の一大市場として發展して参りましたものであります。最近東部後貝加爾に於ける國境の取締が行き届かないので吉拉林及「シヴィシヤン」を経て禁を犯して後貝加爾との貿易が行はれつつあります。

吉拉林は室韋とも稱します。海拉爾から北方二八六露里、後貝加爾州「ネルチンヘクザラード」の對岸でアルゲン河畔に位し、北方一帯に出入する旅行者の要路で、市街の周圍は一里と稱せられます。革命前は眇たる一小村に過ぎませんでしたが、革命後、後貝加爾地方から苦力連中が小金を持つて居るを幸ひに、二三人家合同して店舗を構へて、露領地方の物資欠乏を當て込み、盛んに密貿易を始めたのが、そも／＼町の繁榮を來たしたもので、其後國境地方密輸貿易の中心となり、且つ吉拉林金礦のお蔭益々發達して今日及んだのであります。戸數一二〇戸人口一七〇〇人と稱せられます。

シヴィシヤンは海拉爾より西方三〇〇露里、吉拉林と共に自動車も運轉され同地方の對露貿易の中心であります。

吉拉林及ウイシヤンに於て活躍するものは主として支那商店で、後貝加爾地方及全地移民、オ

ロチヨク、蒙古人等と共に盛んに物々交換を以て取引するものであります。

露領への輸出品としては麥粉、スピルト、其他の雜貨で、輸入品は、牛、馬、毛羊、油脂、穀類等で同地方はアルゲニ沿岸産の有名なる栗鼠及貂を主とし、其他熊、狼、狐、山狸、鷹、鷂、獺等の毛皮の集散多いのであります。

海拉爾に輸入さるる小麥粉一ケ年五〇〇車五〇〇、〇〇〇布度に達し、此の大部分が此の地方に送られ、各沿岸にストツクされ、牛、馬又は毛皮等々交換されて巨利を博して居るのであります、官邊にも連絡があり、小麥や小麥粉の對露輸出嚴禁の今日でさへも盛んに露領に送られて居りましたが、時局以來、度々露側より襲撃され、約三万布度の小麥粉は奪取され、殺戮は行はれ遂には三河地方の大虐殺事件まで惹起するに至りました。

斯くて是等對露密貿易の根據地が根底から覆へされて仕舞ひましたので假命時局安定の後と雖も暫らくは回復の見込はありますまい。

因に三河地方は海拉爾から吉拉林に通ずる途中で、根河、得爾布爾河、喀拉布河の三流域地方を指すのであります本は大興安嶺の支脈に接し、西は國境、南は遙かに海拉爾附近に連り、北は

吉拉林河平原に跨るその中間の不確實な地域で、呼倫貝爾に於て最も農業、牧畜の盛んな地方で又カゲツクの多いので知られて居り矢張り經濟上海拉爾の勢力範圍に這入ります。

此の地方にロシア移民の盛んに行はれたのは一九一八年、一九一九年の事で、當時額爾克訥河右岸住民一部は再びソウエート政權下に復歸する事を恐れ、所有の家財を携へて家畜を引き連れ此の地方に逃れたのでありますから、生活は極めて舊式であり、宗教心甚だ強く且つ熾烈なる反ソウエート氣分が漲り、セミヨノフの殘黨が大部を占めて居たのであります。

三河地方の村落は二十六ヶ村で、人口約一五、〇〇〇彼等白系露人の桃源郷として世に知らるゝに至りました。

土地は豊穰で此の地方に耕作を始めたのは一九二二年の事で、現在の耕地は一〇〇〇デシヤーチン(一、一〇〇町歩)小麥約十二万布度の收穫があります。

又牧畜としては牛一五、〇〇〇頭、馬四、〇〇〇頭、羊一二、五〇〇頭で、一ケ年六、七百の食用牛や三、四千の羊、三〇〇〇布度の羊毛等も輸出し得られる様になりました。

バタは一九二四年ウオロンツオフが各所に工場を設立して以來俄かに發達し、一年四、六〇〇

布度位の産額があり、毛皮も年額一〇〇、〇〇〇元に達するに至りました。

臥薪嘗膽十年の辛苦は報われ彼等の理想卿が漸やく其の緒に就き彼等は歡喜に充ち、教會堂や小學校等も建築せられんとして居た矢先、十月一日より數回に亘つて赤色バルチザンの爲め、商品や家財は掠奪され、住民は慘殺されて、此歡樂境も無慘や瞬時にして踏みにじられ、呵鼻叫喚の地獄と化して仕舞ひました、

生き残つた者は海拉爾や、ハルビンに逃れて参りましたが、一寸した音にも脅え戦く様は誠に氣の毒の至りであります。

物價

麥	粉	二等	一布度	四元六〇仙
同	同	三等	同	四、四〇
同	同	四等	同	三六五
石	炭	同	同	二七一、三〇〇

薪	一クボ	六〇、〇〇
羊毛未精洗	一布度	一三、五〇
同 洗毛	同	一四、五〇
牛 皮	同	三三、〇〇—三五、〇〇
タルバカン	一枚	二、七〇—二、八〇
パタ 上等	一布度	一、四〇
同 (ハイラル普通品)	同	〇、九〇
砂 糖	同	七、二〇
同 小賣	一フント	〇、一八一〇、二〇〇

矢張り薪炭の問題に就て一般に最も苦惱して居ります。薪等は蒙古より搬入されて居たものが軍隊の徴發等を恐れてパツタリ來なくなりましたので、相場は幾らと云つても買入れる事が容易でない状態で、而かも駐屯軍隊が食糧は軍隊持であります、薪炭は宿泊して居る各家の負擔であるといふので非常な恐慌を感じて居りました。

又羊毛や、牛皮等も時局を案じて、ストック品の大部分は夫々發送して仕舞ひましたし、蒙古からの出廻りも殆んどありませんから小口取引位で大口のものは全然契約は出来ない状態であります。

主なる商店

海拉爾商務總會は、新舊兩市街に在ります。城内の分は會員二四〇名、特別區の方は一一〇名であります。

蒙古貿易商中に掲げました商店の外主なるものは次の通りであります。

永發魁	福泰永	福和祥
大盛魁	萬興和	同源泰
東興隆	洪泰昌	增盛義(金物)
福昌源	双發德	福泰盛
英美煙公司	シムコーウキツチ(食料品)	

輸送統計

ハイラル驛の普通貨物發送及到着高は次の通りであります。

發送	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
内譯	九、九七四	六、二二七	五、一六四	六、六〇〇	九、九一六
自鐵道内	四、七八九	三、八一七	四、三四〇	五、九二八	九、一三七
ウスリー鐵道へ	四六五	六四〇	五二七	五四三	七〇八
滿鐵へ	四、七二〇	一、七七〇	三〇二	一二九	七一
主なる貨物					
肉類	五二八	六九一	四五四	五七七	六三八
羊毛	一、三三七	一、八〇〇	一、一〇三	一、四八一	一、六九八
皮革	一九八	一八六	一三五	七〇	三四〇

毛皮	二七七	二四四	五九七	三八二	三三六
建築材	三、五六五	一七八	七七	一二五	二四〇
穀類	三、〇二一	一、九一四	一、一六二	一、三七九	二、七五九
野菜	二六八	三三六	三一一	三一六	六九一
鹽	一一七	一四二	三二二	三三六	四六七
曹達	二二二	八〇	一二九	八四	一三〇
食料品	二五	九四	六八	二六二	一八五
家畜	四五、五六四頭	一、八六頭	一七、三四四頭	九、三〇三頭	一六、九九三頭
刊著	二〇、八九〇	二六、五一八	三四、八九二	三六、七二七	四四、四三〇
内譯					
自鐵道内より	二〇、五六七	二六、〇〇五	三三、四八〇	三五、七五四	四三、七九一
ウスリー鐵道より	七六	二〇三	一、〇四二	七三五	五四七
滿鐵より	二四七	三二〇	三七〇	二三八	九二

重なる貨物

穀類	五、九三六	七、六六四	八、五七六	一一、七五七	一二、〇〇八
石炭	九、九七一	一〇、八八〇	一五、二一一	一五、八五八	一六、〇二六
薪	九四	五四一	四〇五	二、七二三	三、一五二
建築材	六三	九〇七	二四三	一五一	六一八
乾草	八五九	九六〇	五、一二八	一、三四〇	五、八一〇
羊毛	一八二	二九四	一三一	二三二	九三
木製品	五二	一〇一	八三	二四八	二〇九
石油	五七	一〇一	七二	九五	九五
魚類	五三	五一	六九	一〇〇	八三
鐵材	一一二	二二一	一七〇	一六七	一三四
硝子硝子製品	六〇	六六	九六	七一	五八
果物	七二	七六	一一〇	一五九	一三二

鐵製	品	一四四	二七一	二五一	一九一	一八二
野	柴	二二〇	一四五	一八六	二三九	一九五
煙	草	二七四	三二六	二七七	三〇〇	二四七
砂	糖	二八九	五一八	六三三	六七三	一六三
種	子油	一九九	二九六	二五〇	一五〇	一三七
酒精及酒類		三八七	三五七	一九三	一五六	七一
茶		六三六	七六八	一、〇二八	六三九	一九二
家畜		五八七頭	四八〇頭	六三三頭	九四五頭	八二〇頭

金融及通貨

當地の金融機關は次の通りであります。

東三省官銀號支店 一九二一年開設

廣信公司支店 齊々哈爾を本店とし、半官半民組織で、當地支店は大洋票發行權を有して居

ります、其の發行當初は不人氣でありましたが漸次信用を得て、目下は他の支那銀行發行大洋票と等しく流通して居りますが、東支鐵道のみは、廣信公司のものを受附けず、之で切符等を購ふ事が出来ません。普通銀行業務の外鹽專賣及製鹽業、電氣事業を營んで居ます。

信濟銀行 米系の小銀行で、餘り活動はして居らない様であります。

極東銀行 ソウエート系の銀行で最も活躍し、殊に對蒙貿易に力を注ぎ、當地方に對する貸附金は二百萬元に上るだらうこの事ではありますが、今回の時局に依り、引揚の余儀なきに立至り當地市場の蒙つた影響も亦決して小さいものではありません。

通貨は大洋票が主で、日本貨は日本人間に使用せらるゝ位であります。

工業

海拉爾は皮革、羊毛等の畜産關係の原料が豊富であり、且つ水利の便があり、水質も極めて良好であるため工場も相當發達して居ります。



種類	工場名	設立	能力
皮革工場	アクーロフ	一九一九	皮革年二五〇、〇〇〇枚
製粉所	廣信泰		一日二、〇〇〇布度
酒精工場	ウオロツオフ		
電燈	廣信公司	一九一三	一六一キロワット
羊毛洗毛場	東支鐵道	一九二三	一日一、〇〇〇布度
同	個人經營のもの四		
牛羊屠工場	同	一〇	
屠殺場	東支鐵道		一ヶ月屠殺牛四〇〇頭羊一、〇〇〇頭

此の外バター製造相當設備のもの二個の外小規模のもの合計能力一日一〇〇〇布度、皮革、フェルト製造、等小規模のものが相當發達して居ります、又醬油醸造の大盛昌醬園は滿洲里まで販路を有し品質も好評を博して居ります。

右の内最も異色あるものは洗毛工場で、伊敏河の水流を利用して、羊毛を洗滌、砂や塵埃を除

去し、之を干燥せしめて選別の上壓搾梱包して運賃の減遞を計のを目的とします。

東支鐵道の洗毛工場が最も大なるもので、一九二三年開始、一晝夜千布度の能力を持つて居ります。

最初河中にある金網張りの枠中に羊毛を入れて足踏に依つて洗滌し、之を場内廣場に柱を打ち込んで鐵線を張つて、此の架空線に掛け、又は柵の上或は地上で一日乃至二日乾燥したものを、壓搾器で六馬力の蒸汽で壓搾、麻布に鐵帶を以て梱包します。一梱七布度で、壓搾器は大小二台ありますが、私の参りました時は大きな新式の方は破損個所があるので休止し、小さな方のみ繰業して居りました。

繰業期間は六月より九月末位まであります。

昨年の取扱高は三萬布度、内七割はモスコウへ、三割がアメリカへ輸出されましたが本年は時局の関係で直接モスコウへ送られなくなりましたが、大連經山浦汐から轉送されて居ります。數量は幾分減少を免れますまい。目下カブラン等の依頼でニューヨーク向けのものを洗毛、梱包して居りました。

風の日等此の乾してある羊毛の飛び去るものは大したもの、附近の樹等は眞白くなつて居るようですが、之に干燥機を敷設しましたならば、能率と利益を擧げる事は大したものとなりませぬ、それ、調査中だそうであります。

廣信泰火磨は製品が餘り評判がよくないのですが、それでも時局で、相當多忙を極めて居ります。

ウラロンツオフ酒釀所は東鐵洗毛場に隣接して居りますが、元來、キラリン方面への密輸出が主な得意であつたため、其地方の不振から兩三年以來休止して居ります。

電燈會社は資本大洋一六〇、〇〇〇元、發電能力一六一キロワット、總發電量一ケ年約二五〇〇〇〇キロワットであります、約束燈が増加し結果光力が非常に鈍く、夜中他の消燈した頃から漸く光を増す位で、各家一齊に使用する頃はボツと明る、位で蠟燭でも燈さねば新聞等は到底讀む事は出来ません。然し近々擴張されるらしく、新發電所の様なものが建築中であります。

バターは各牧場が小さな機械を持つて居り、一日能力合計一〇〇布度位ですが、前にウオロンツオフが各地方にバター工場を所有し、ハルビン向け輸出は殆んど其の獨占と云つても差支ない

位であります。

オリロフ皮革工場は元チタにて製革事業に従前して居たもので、皮革のみならず靴及馬具等も製造して居ります。

屠獸場は、海拉爾鐵橋畔に在り、設備も完備して居ります。昨年一ケ年屠殺数は羊三〇、〇〇〇、牛二、〇〇〇頭であります、冬季は自然に凍結しますので、凍肉として南北滿洲一帶から浦鹽ハ、ロフスク及黑龍州一帶へ供給されます。日本へも浦鹽經由輸出が度々試験されて居りますが、日本の輸入規則が嚴重な爲め、まだ成功致しません。尙富地の有力者で牛肉よりも羊の凍肉を日本へ送つたならば廉價にして美味であるから面白い仕事となるであらうと切りに研究して居ります。食用肉の不足に悩む日本としても充分研究の必要があります。

又牛羊腸工場は近年アメリカよりの需要激増して俄かに少工場が増加しました。鹽漬として輸出され、ソーセージ、ラケツトのガツト、樂益の絞等に用ゐられます。南滿地方のものは寄生虫の爲めに穴があつて不良であります、當地方のものは遙かに優良なる事が認めらるゝに至りました。

農業

海拉爾を中心としては畜産が主要なる産業となつて居りますので、牧場を必要とする關係上、農業は餘り歓迎されず、僅かに、市街附近で蔬菜を栽培して海拉爾に供給するに止まり、約一二〇町歩位で、麥類三〇%、馬鈴薯二五%、葱一〇%、甘藍七%、其他蔬菜二〇%の割合であります。

決して地味が悪いといふのでなく、海拉爾では蒙古政廳よりの抗議に依つて、新開墾を許可せぬ方針を採つて居りますから、今後現状維持で、特に耕作地の増加する事はありますまい。當地方に出廻る小麥等は主として三河及吉拉林地方より移入されるのであります。

日本人の現状

海拉爾在留日本人は次の通りであります。

内地人

鮮人

計

戸数	人口		計
	男	女	
一八	二〇	三六	一九
一九	三二	二二	三二
三二	五二	五八	三二
三七	五二	五八	三七
一〇	一〇	一〇	一〇

右の内内地人を職業別に見ますと次の通りであります。

畜産業	物品販賣業	質屋	商店員	旅館料理店	理髮業	官公吏	醫務に關する業
一	六	一	三	三	一	一	一

矢張り最も勢力あるものは料理店であつて、娘子軍の活躍する所であります。何等權威あるものなく、量に於ても質に於ても滿洲里と比較になりません。彼地よりもはるかに活氣があり有望である此の地に、我が日本人の發展すべき基礎が開拓されて居ない事は遺憾に堪へない所であります。蓋し金融と語學との不便に基因するものでありませう。

最近哈爾濱松浦商會が此の地に支店を設くる事となりましたが、吾人の最も喜ぶ所で、斯界の先驅者として開拓に努力せられん事を切望する次第であります。

常鮮人は主として農業に従事して居りますが、醫師李雄氏は其の子息と共に朝鮮醫院を開き、蒙古地方まで巡回診療に従事して居られますが、中々の氣焔家でもあり、聲望もある人格者であります。お暇の時には同氏に就て活佛の話や蒙古の話聞くのも愉快なる事であります。

### 時局と蒙古青年黨

蒙古に在る遊牧の民は何日まで昔ながらの夢を追ふて行くのでありませうか。否、彼等にも

政治的に經濟的に、煩悶の日が増えて行きます、一九一一年の獨立、一九二〇年の取消、近くは一九二八年八月の獨立運動等に依つて、若い蒙古人は長い長い眠りから目覺めて、人種争鬭の渦中に投じ様として居ります。

彼等蒙古青年黨は昨年八月黨内の革新と大蒙古國の建設を標榜して立ちましたが、遂に失敗に終り、今回の時局發生するや、世人は直ちに蒙古青年黨が必ずや此の好機會を利用して、ロシアの後援を得て、立つてあらうと豫想され噂せられたのでありますが、消息通の語る所に依りますと、當時の大立物であつた『メルセイ』は既に奉天政府に買収された形となり、是に代るべき中心人物が無い事と、青年黨としても、今日ロシアの使族に依つて盲動するとせば、假りに勝利を得たとしても、將來野心沸々なるロシアに隸屬しなければならなくなるであらうし、又不幸にて戦に敗れたならば、支那側から如何なる壓迫を受くとも知れない、むしろ此の際自重して、自分自らの力を以て獨立の運動を成し遂げ得る時に起つに如かずと爲し、有識者の間に慎重に考へられて居る故に、しかく、簡單に動く様な事はあるまいと云はれて居ます。

その昔成吉思汗を生んだ種族であります。又第二の成吉思汗は何時の日に生れるであらうか。

海拉爾の將來に就ては非常に悲觀されて居ります。

即ち海拉爾は對蒙貿易を以て生命とするに拘はらず、最近蒙古に對してはロシアの勢力が伸びるに従ひ、海拉爾の勢力範圍が段々と縮少されて、其の産物たる牛、馬、羊や、羊、毛、毛皮等の出廻りも年々減少の傾向に在る事は事實で、此の儘推移するならば海拉爾は何等價值なき市街となるであらう。而かも、年々歳々種々なる事件が頻發して殊に背後地たる甘珠爾廟歲市も二年間引續き開かれず、吉拉林三河地方が非常なる迫害を受けて再び立つ能はざる致命的の打撃を受け、惹いて當地商民の受けた損失は莫大なるものがある上に、非常な苛税に苦しめられて居りますから、到底延びて行く力は求め得られないといふのであります。

事實商民は駄目々々實際やり切れませんと異口同音に訴へます。

然し何と云つても西部線中最も殷盛にして、原料及水利もあり、各種工業も發達の餘地があり製鹽、曹達工業等の事業も残されて居り牛馬羊羊毛の改良に伴ふ、産額の増加と羊牛肉の輸出等

は生活必需の事業であり、目下はまだ問題とされて居ませんが農業も亦小麥耕作に適する土地が多いのでありますから、海拉爾は左程悲觀されたものでなく、見方に依つては却て有望なる將來ある事を物語るものと云はねばなりません。

貿易も相當大きな資本を以て開始するならば面白い結果が得られませう、また日本人としては此の方面に手を染めて居る者無く經驗者といふ者もありませんが、蒙古語に堪能な人々に依つて此の方面の地盤を開拓するならば、日本輸出品の一大市場を發見し得られるのでありませう。

#### 四、甘珠爾廟歲市

甘珠爾廟は海拉爾の西南一七六露里(四四邦里)、滿洲里を距る東南方二〇〇露里(五〇邦里餘)の地點、呼倫貝爾、新巴爾虎、廟正黃白旗内、海拉爾庫倫間の交通要路に在ります。呼倫貝爾湖一帶の草原を控へて遊牧地帯の中心地をなして居ります。

甘珠爾廟は乾隆四十九年(一七八四年)の建立にかゝり、清高宗帝の聖旨を以て壽寧寺の名を賜はつたのでありますが、西藏より甘珠爾經典を招來しましたので、此の經典の名を呼んで甘珠

爾廟と呼稱するに至つたものと言はれます。叢然たる廟棟、莊嚴なる高塔、輪奐結構を極めた廟宇が茫漠がる大砂漠中に異彩を放つて居るのであります。

毎年秋季舊曆八月六日より十五日迄喇嘛の大法會を執行し、内外蒙古の各旗から禮拜に參集する蒙人數千人に及び、所謂甘珠爾歲市は此の法會の行はるゝ時に際し、八月一日より五日まで開催されるのであります。

甘珠爾廟歲市は百餘年の歴史を有するものと云はれ、約四十年前より繁雜を避け且つ廟の神聖を保持するために現在の地點である廟を距る西北約一里の原野中に移したものであります。

平常は蒙古包と稱する住宅一個すらなき草原であります。開市に際しては呼倫貝爾の新巴爾虎、海拉爾河以北の舊巴爾虎、内外蒙古地方の蒙古人、滿洲里、海拉爾、齊々哈爾、哈爾濱、並南支方面より數千の支那商人及露人、其他英米佛等の外國商人が蟬集し來り、俄然人馬輻輳の一市場を現出し約五露里に亘ります。

舊曆八月六日より十五日まで喇嘛の大法會が執り行はれるに當り、八月一日より五日まで定期市が開かれ、呼倫貝爾及内外蒙古の各旗より參詣を兼ねて齎らす家畜及其原料と日用雜貨類との

交換及び賣買が行はれ、家畜及畜産物の需要者は蒙古内地に出版して之を買附くるの煩を避け、本定期市を利用するのであります。

東支鐵道開設以前は此の甘珠爾廟歲市が北蒙古唯一の貨物集散地で、蒙古人は一年中の所用品を交換しましたので取引額は數百方圓に達し、又牛馬の集散高も數方頭に上つたのであります。鐵道開通後、海拉爾及滿洲里の取引が雙達するに従ひ、歲市の取引額並に家畜の集散高が共に著しく減少しました。尙又蒙古人向の雜貨類の如きも隨時鐵道で輸送せられ、或は各王旗内に有する露支商人の店舗或は派遣店員等が販賣しますので、往年の如く一年中の日用品を一時に購入する必要も無くなりましたから、取引高も減少致しましたが、蓋し時勢の趨勢で止むを得ない所でありませう。

最近の交易状況は大約次の如きものであります。

牛	二、〇〇〇頭—三、〇〇〇頭
馬	二、〇〇〇頭—三、〇〇〇頭
羊	一〇、〇〇〇頭

交易総額五〇〇〇〇元乃至一、〇〇〇、〇〇〇元位であります。

昨年は丁度開市準備中の時呼倫貝爾獨立騒動となり、中には貨物も其の儘逃げ歸つたものもあり、本年は露支紛争のため、初めから誰れ云ふもなく中止となつて仕舞ひました。

けれども蒙古人が多年の信仰を今俄かに放擲しようとも思はれず、神廟の祭祠も昔日に變る事なく執り行はれるであらうし、之れに伴ふ甘殊爾廟歳市も尙將來繼續さるべきものと信ぜられま

す。  
尙曾て神廟と共に此の歳市を滿洲里又は海拉爾に移す運動も起されましたが失敗に終り、又海拉爾市街に前に神廟を建立し、甘殊爾を凌ぐべき定期市を開催しようとの計畫もあると申しませんが、之も未だ實現に至らず又困難なる仕事であらうと思はれます。

### 五、哈克ハケ

哈克は海拉爾から二八キロの地點に在る小驛ではありますが、附近一帶に牧草を産すると、蒙古よりの牛馬羊等の家畜の出廻り驛として活躍して居ります。

即ち驛の主なる發送貨物は次の通りであります。

	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
干 葉	一、五〇七噸	四四三噸	二二三噸	四八八噸	一、二七五噸
家 畜	一、九六五頭	三、七二三頭	五、七三六頭	一、七〇九三頭	二〇、九三六頭

本年は此の附近一帶河水氾濫、遂に汽車が一週日も不通になつた程で、牧草の流失及腐敗等の損失は莫大なもので、自然家畜の出廻りにも影響する事となりませう。

## 東支鐵道西部沿線

(上終)

# 哈爾濱商品陳列館刊パンフレット目録

號數	書名	備考
一	東三省特別區市内、郷、自治、暫定規則並施行令	(缺)
二	北滿特産と日本特産商の現状	(缺)
三	滿洲里、海拉爾事情	(缺)
四	勞農露西亞の國家製度(上)	(缺)
五	同 (下)	(缺)
六	勞農露國の對外貿易規則集(上)	(缺)
七	北滿洲の工業概観	(缺)
八	勞農露國の對外貿易規則集(下)	(缺)
九	現行勞農商業法規概説	(缺)
一〇	現行勞農企業法規概説	(缺)
一一	西伯利經濟事情(上)	(缺)
一二	同 (下)	(缺)
一三	北滿地方の阿片	(缺)
一四	露國の亞麻と北滿洲の亞麻栽培研究(缺)	(缺)
一五	(一)シ、シ、シ、シ、シ、憲法史の梗概 (二)金融上より見たる東鐵附屬地土地建物の權利關係	(缺)
一六	(一)シ、シ、シ、シ、シ、の最高裁判 (二)ソウエート機關の概要	(缺)
一七	勞農露國に於ける取引契約	(缺)
一八	(一)村落、郷ソウエート機關の概要 (二)勞農當局の説明せる同國の現状	(缺)
一九	(一)同縣州内國貿易部に關する規定(缺) (二)勞農勞働組合法規 (三)シ、シ、シ、シ、内、に於て外國人が商業に従事する規定	(缺)
二〇	包装の研究	(缺)
二一	ウクライナ共和國の概況	(缺)



- 二二 北滿地方の阿片(下)
- 二三 北滿に於ける露人及外人關係事業 (缺)
- 二四 露領極東大觀(一) (缺)
- 二五 同 (二)
- 二六 入露の指針
- 號外 臺灣の旅
- 二七 (一)勞農露國內異種民族共和國の近況  
(二)勞農露國及極東購買組合成績
- 二八 露領極東大觀(三)
- 二九 哈爾濱に於ける列國の經濟勢力(上)(缺)
- 三〇 全 (下)(缺)
- 三一 露人見たる太平洋問題解決道程(一)(缺)
- 三二 東支沿線指南(上) (缺)
- 三三 勞農露國々立極東及極東農業銀行定款
- 三四 露人の見たる太平洋問題解決の道程(二)
- 三五 露領極東概観
- 三六 露人の見たる太平洋問題解決の道程(三)
- 三七 東支沿線指南(中) (缺)

- 三八 露人の見たる太平洋問題解決の道程(四)
- 三九 沿海縣事情(上編)
- 四〇 一九二五年—二六年度シ、シ、シ、ビ、國民經濟豫想
- 四一 大正十四年度勞農露國
- 四二 沿海縣事情(中編)
- 四三 同 (後編)
- 四四 ソベイト聯邦對外貿易銀行定款
- 四五 極東經濟問題中に現れた東支鐵道(上編)
- 四六 同 (下編)
- 四七 公報より見たるソベイト聯邦の經濟狀態
- 四八 ソベイト對外獨占とネープ
- 四九 計画的經濟と外國貿易獨占
- 五〇 ソベイト極東の教育
- 五一 ソベイト國營工業
- 五二 (一)ソベイト一九二五年度の經濟政策  
(二)ソベイト工業管理に職業同盟の參加
- 五三 ソベイト利權政策の新傾向

- 五四 經濟上より見たる勞農露西亞
- 五五 極東地方金融制度
- 五六 ソウエイト聯邦法規概要(上)
- 五七 勞農露西亞の財産權
- 五八 ソウエイト聯邦法規概要(下)
- 五九 ソウエイト聯邦に於ける密輸 (缺)
- 六〇 ソウエイト同に於ける外國貿易(一)(缺)
- 六一 同 (二)(缺)
- 六二 東支沿線指南 下編(乾)
- 六三 同 (坤)
- 六四 ソウエイト聯邦に於ける經濟事情 (缺)
- 六五 同 聯邦と共和國並に共產黨と猶太(缺)
- 六六 ソウエイト文化施設外國人の權利義務私有財産及相續財産
- 六七 西伯利地方極東地方並ヤクートスクプリヤトモゴリ社會主義ソウエイト自治共和國
- 六八 ソウエイト聯邦利權法(上編)
- 六九 同 (下編)

- 七〇 ソウエイト聯邦に於ける輸出貿易の期節性
- 七一 ソウエイト極東地方の諸統計
- 七二 洮昂及四洮鐵道案内
- 七三 一九二六年度蘇國の外國貿易と日蘇貿易
- 七四 支那領烏蘇里沿岸事情
- 七五 ヤクーツク共和國(上卷)
- 七六 ヤクーツク共和國(下卷)
- 七七 最近に於ける蘇聯邦の國民經濟一般
- 七九 極東經濟及び文化的施設に對する各委員の報告概要
- 八〇 極東殖民史
- 八一 松花江沿岸事情
- 八二 北滿の移民
- 八三 沿海縣の水田
- 八四 ソウエイト共和國土地法典(前編)
- 八五 同 (後編)
- 八六 露支東部國境の密輸事情
- 八七 呼海鐵路並に沿線事情

- 八八 吉拉林及三河地方事情
- 八九 ロシヤ雜觀(上篇)
- 九〇 同 (下篇)
- 九一 松花江の航運
- 九二 極東の水田
- 九三 ソウエート聯邦概覽
- 九四 北滿に於ける輸入商品(その一)
- 九五 蘇聯邦極東産業計畫
- 九六 極東沿海地方の諸企業(上卷)
- 九七 極東沿海地方の諸企業(下卷)
- 九八 北滿に於ける輸入商品(その二)
- 九九 現行外國利權及國民經濟に及ぼす影響
- 一〇〇 旅大並に南滿東支鐵道附屬地とその隣接地帯に於ける支那人の經濟的勢力
- 一〇一 蘇聯邦の課税と反幹部派
- 一〇二 東支鐵道沿線牧畜狀態及同鐵道の對策並に沿海縣北滿の米作
- 一〇三 ソウエート聯邦における原料貯藏高

- 一〇四 吉林省中部各縣事情 (上卷)
- 一〇五 同 (下卷)
- 一〇六 蘇聯邦の大資本施設 (上卷)
- 一〇七 同 (下卷)
- 一〇八 昭和三年哈爾濱市況
- 一〇九 傅家甸に於ける工業
- 一一〇 蘇聯邦の國營保險
- 一一一 北滿に於ける輸入商品(その三)
- 一一二 哈爾濱に於ける商工組合其他規定集(上)
- 一一三 蘇聯の失業と其對策
- 一一四 哈爾濱に於ける商工組合其他規定集(下)
- 一一五 松花江の航運 附黑龍江航運の使命
- 一一六 極東露領の植民
- 一一七 東支鐵道南部沿線事情
- 一一八 極東露領視察記(一)
- 一一九 同 (二)
- 一二〇 極東露領移民用地の概要

終

